

OPTIMIZE

MERCURY WINRUNNER™

VERSION 9.2

インストール・ガイド

MERCURY™

BUSINESS TECHNOLOGY OPTIMIZATION

Mercury WinRunner

インストール・ガイド

Version 9.2

発行日 : 2007 年 2 月 26 日

MERCURY™

Mercury WinRunner インストール・ガイド, Version 9.2

本ドキュメント、付属するソフトウェアおよびその他の文書の著作権は、米国および国際著作権法によって保護されており、それらに付随する使用契約書の内容に則する範囲内で使用できます。Mercury Interactive Corporation のソフトウェア、その他の製品およびサービスの機能は次の 1 つまたはそれ以上の特許に記述があります。米国特許番号：5,511,185; 5,657,438; 5,701,139; 5,870,559; 5,958,008; 5,974,572; 6,137,782; 6,138,157; 6,144,962; 6,205,122; 6,237,006; 6,341,310; 6,360,332; 6,449,739; 6,470,383; 6,477,483; 6,549,944; 6,560,564; 6,564,342; 6,587,969; 6,631,408; 6,631,411; 6,633,912; 6,694,288; 6,738,813; 6,738,933; 6,754,701; 6,792,460 および 6,810,494。オーストラリア：763468 および 762554。その他特許出願中。権利はすべて弊社に帰属します。

米国政府に対する限定権利 本ソフトウェア関連マニュアルは、48 C.F.R.2.101 (1995 年 10 月) に定義されている「商品」に該当します。48 C.F.R. 12.212 (1995 年 10 月), 48 C.F.R. 27.401 ~ 27.404, 522.227-14 (1987 年 6 月改正), 48 D.F.R. 227.7201 ~ 227.7204 (1995 年 6 月) および該当する各米政府機関の C.F.R. (「連邦調達規定」) の第 48 章への補遺等の同等の条項に基づき、米国政府に所属するユーザは、本文書に関連するコンピュータ・ソフトウェアのライセンス契約に規定されている限定権利を付与され、かかる権利に従って本文書を使用できます。

Mercury, Mercury Interactive, Mercury のロゴ, Mercury Interactive のロゴ, LoadRunner, WinRunner, SiteScope および TestDirector は、Mercury Interactive Corporation の商標であり、特定の司法管轄内において登録されている場合があります。上記の一覧に含まれていない商標についても、Mercury が当該商標の知的所有権を放棄するものではありません。

その他の企業名、ブランド名、製品名の商標および登録商標は、各所有者に帰属します。Mercury は、どの商標がどの企業または組織の所有に属するかを明記する責任を負いません。

Mercury は、補足情報の入手に役立つよう、外部の第三者の Web サイトへのリンクを提供します。サイトの内容と利用の可否は予告なしに変更される場合があります。Mercury は、サイトの内容と利用の可否について、いかなる表明も保証もしません。

Mercury Interactive Corporation

379 North Whisman Road

Mountain View, CA 94043

Tel: (650) 603-5200

Fax: (650) 603-5300

<http://www.mercury.com>

1993-2007 Mercury Interactive Corporation, 権利はすべて弊社に帰属します。

本書に関するご意見やご要望は documentation@mercury.com まで電子メールにてお送りください。

目次

第 1 章 : インストールの前に	5
システム要件	6
以前のバージョンからのアップグレード	7
インストール・タイプとライセンス・タイプの選択	8
第 2 章 : WinRunner のインストール	10
スタンドアロン・インストールまたはネットワーク・インストールの 実行	11
ワークステーション・インストールの実行	30
更新用のローカル・ネットワーク・ドライブの使用	32
サイレント・インストールのセットアップ	35
DCOM アクセス許可設定の変更による WinRunner リモート実行 の有効化	40
第 3 章 : WinRunner のライセンスに関する作業	48
WinRunner ライセンスを使った作業について	49
WinRunner のライセンスについて	50
WinRunner ライセンスのインストール	52
シート・ライセンス・コードの申請	53
シート・ライセンス・コードの有効化	55
ライセンスの種類の変更	60
LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定	61
コンピュータ・ライセンスの使用	63
第 4 章 : Visual Basic サポートの設定	75
Visual Basic 5.0 サポートの設定	75
第 5 章 : ActiveX コントロールのテーブル内容の チェックの有効化	78
第 6 章 : WinRunner と埋め込みブラウザ・コントロールとの 連携の設定	80
第 7 章 : WinRunner 機能の追加	81
第 8 章 : WinRunner のアンインストール	84

インストールの前に

Mercury のエンタープライズ機能テスト・ソリューション，WinRunner へようこそ。本書では，WinRunner をスタンドアロン・コンピュータまたはネットワークへインストールするために必要なことをすべて説明します。本書では，WinRunner のパッケージ内容，システム構成，登録の手順，ライセンス・タイプの選択方法，およびセットアップ・プログラムの実行方法について説明します。

WinRunner のインストールを始める前に，次のインストールに関する情報を参照してください。

システム要件

WinRunner を正常に実行するために必要な最小限のシステム構成は次のとおりです。

コンピュータおよびプロセッサ	Pentium III 以上のプロセッサを搭載した IBM-PC 互換機。
メモリ	128 MB の RAM。
ディスク領域	最小インストールで 50 MB、標準またはフル・インストールで 140 MB。 また、すでにマシンにインストールされている共有コンポーネントによっては、Windows がインストールされているドライブにさらに 20 ~ 40 MB 必要になることがあります。 インストール中は、最小インストールで 10 MB、標準またはフル・インストールで 90 MB がさらに必要になります。
オペレーティング・システム	Windows 2000 サービス・パック 4、Windows XP サービス・パック 1 または サービス・パック 2、Windows 2003 サーバ、Windows 2003 サーバ・サービス・パック 1、または Windows Vista 32 ビット。
ディスプレイ	解像度 800 x 600 以上と最小カラー・デプスが 256 色のモニタ。
ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 6 または Microsoft Internet Explorer 7 (必須)。

注：パフォーマンスは最小システム構成に合わせては最適化されません。最良のパフォーマンスを得るには、最小システム構成よりも高く設定しておく必要があります。

以前のバージョンからのアップグレード

WinRunner のスタンドアロン・バージョンを、以前のバージョンに上書きインストールできます。このとき、**¥lib** ディレクトリにあるテストやその他のファイルへの変更はすべて上書きされますが、既存の **¥lib** ディレクトリは **¥lib.bak** としてバックアップされます。ただし、**¥lib.bak** ディレクトリがすでに存在している場合には、既存の **¥lib** ディレクトリはバックアップされません。既存の WinRunner に WinRunner 9.2 を上書きインストールする前に、手作業で追加または変更したすべてのファイルを個別に保存する必要があります。**wrun.ini** ファイルに加えられた設定の変更は WinRunner 9.2 のインストール時に上書きされません。

WinRunner 2000 または WinRunner EURO に WinRunner を上書きインストールすることはできません。どちらも WinRunner 9.2 をインストールする前にアンインストールしておく必要があります。詳細については「WinRunner のアンインストール」の 84 ページを参照してください。

WinRunner 9.2 を使用するには、シート・ライセンス・コードまたはコンカレント・ライセンス・コードが必要です。すでにライセンス・コードを所有している場合、WinRunner バージョン 7.01 以前（ヨーロッパのお客様の場合は 7.0 以前）からアップグレードする場合は、新しいライセンス・コードが必要です。ライセンス・コードは、Mercury カスタマー・サポート Web サイト (<http://support.mercury.com/jp/services/license-req/>) から申請できます。

シート・ライセンスのインストールの詳細については、「WinRunner のライセンスに関する作業」の 48 ページを参照してください。コンカレント・ライセンスのインストールの詳細については、『*Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide* (英語版)』を参照してください。

注： WinRunner 6.0 以前のバージョンから WinRunner 9.2 にアップグレードするには、TestDirector 6.0 以降または Quality Center へのアップグレードを行うか、別のマシンに ODBC 4 をインストールする任意のソフトウェアをインストールしてください。

インストール・タイプとライセンス・タイプの選択

WinRunner をインストールする前に、使用するインストール・タイプとライセンス・タイプを決定する必要があります。

ライセンス・タイプの選択

WinRunner を初めてインストールする時には、WinRunner をシート・ライセンスとコンカレント・ライセンスのどちらでインストールするかを決定します。シート・ライセンスは、ご自分のコンピュータでのみ使用できるローカル・ライセンスです。コンカレント・ライセンスは、指定したユーザ数が同時に作業できるライセンスです。コンカレント・ライセンスを使用する場合は、Mercury Functional Testing Concurrent License Server がインストールされている必要があります。

ライセンスの種類の詳細、および各ライセンスの種類インストール手順の概要については、「WinRunner のライセンスについて」の 50 ページおよび「WinRunner ライセンスのインストール」の 52 ページを参照してください。

インストールの種類を選択

インストール中に、WinRunner のコンピュータへのインストール方法を決定する必要があります。

- ▶ **スタンドアロン・インストール** 個別インストール。完全なセットアップ・プログラムを実行し、使用するコンピュータに必要なインストール・オプションを選択できます。

注：また、スタンドアロン・インストールを記録して、他のユーザが同じ設定のサイレント・インストールを行えるようにすることもできます。サイレント・インストールの詳細については、「サイレント・インストールのセットアップ」の 35 ページを参照してください。

- ▶ **ネットワーク インストール** インストール・プロセス中にユーザが選択したオプションと機能に基づいて、複数のユーザが簡略化されたワークステーション・インストールを実行できるようにする、WinRunner の設定です。標準設定では、ネットワーク・インストールを行うと、WinRunner をインストールしたコンピュータからは WinRunner を使用できません。そのコンピュータで WinRunner を使用する場合、インストール時に [インストールの種類] で [ネットワーク インストール (ショートカットを追加)] を選択します。

注：Java アドインは WinRunner のネットワーク・インストールではインストールできません。

- ▶ **ワークステーション・インストール** ネットワーク・インストールに基づく単純なインストール。ワークステーション・インストールをインストールすると、コンピュータには少数の設定ファイルとショートカット・アイコンのみがインストールされます。ワークステーション・インストールを行うには、ネットワーク上で WinRunner のネットワーク・インストールが行えることを確認する必要があります。WinRunner ソフトウェアはネットワーク・コンピュータ上に置かれ、[スタート] メニューにインストールされたショートカットからアクセスできます。ワークステーションから WinRunner を起動した場合は、設定ダイアログ・ボックスでの変更はお使いのコンピュータに保存されるので、そのコンピュータから WinRunner を実行するたびに、設定の変更が自動的に反映されます。

WinRunner のインストール

WinRunner をインストールする前に、どの種類のインストールを実行するか、また、どの種類のライセンスをインストールするかを知っておく必要があります。詳細については、「WinRunner のライセンスについて」の 50 ページおよび「インストール・タイプとライセンス・タイプの選択」の 8 ページを参照してください。

アップグレードに関する重要な情報： WinRunner 7.5 またはそれ以降（ヨーロッパのお客様の場合は WinRunner 7.01 またはそれ以降）からのアップグレードの場合には、既存のライセンス・コードをそのまま使えます。それよりも前のバージョンの WinRunner の場合は、「WinRunner のライセンスに関する作業」の 48 ページおよび『*Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide (英語版)*』に記述されている手順で、カスタム・サポートに連絡し、新しいライセンス・コードを取得してください。

この節では次の項目について説明します。

- ▶ スタンドアロン・インストールまたはネットワーク・インストールの実行
- ▶ ワークステーション・インストールの実行
- ▶ 更新用のローカル・ネットワーク・ドライブの使用
- ▶ サイレント・インストールのセットアップ
- ▶ DCOM アクセス許可設定の変更による WinRunner リモート実行の有効化

スタンドアロン・インストールまたはネットワーク・インストールの実行

WinRunner のスタンドアロン・インストールまたはネットワーク・インストールは、次の手順で実行します。

ネットワーク・インストールを実行する場合は、次の手順に従ってネットワークに WinRunner をインストールしてから、30 ページの手順で各ユーザのワークステーションでワークステーション・インストールを実行します。

WinRunner のスタンドアロン・インストールまたはネットワーク・インストールは、次の手順で実行します。

- 1 CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入します。CD-ROM ドライブが、使用しているマシンにある場合は、[WinRunner インストール] ウィンドウが開きます。ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、ドライブに接続します (ドライブを割り当てます)。CD-ROM のルート・フォルダにある **autorun.exe** をダブルクリックします。[WinRunner インストール] ウィンドウが開きます。



- ▶ WinRunner のリリース・ノートを確認する場合は、[**最初にお読みください**] をクリックします。
- ▶ WinRunner のインストール CD-ROM のフォルダを参照するには、[**CD の参照**] をクリックします。
- ▶ WinRunner の概要を表示するには、[**WinRunner クイック プレビューの表示**] をクリックします。
- ▶ WinRunner の新機能のリストを表示するには、[**新機能**] をクリックします。

注： WinRunner をインストールするには、管理者権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

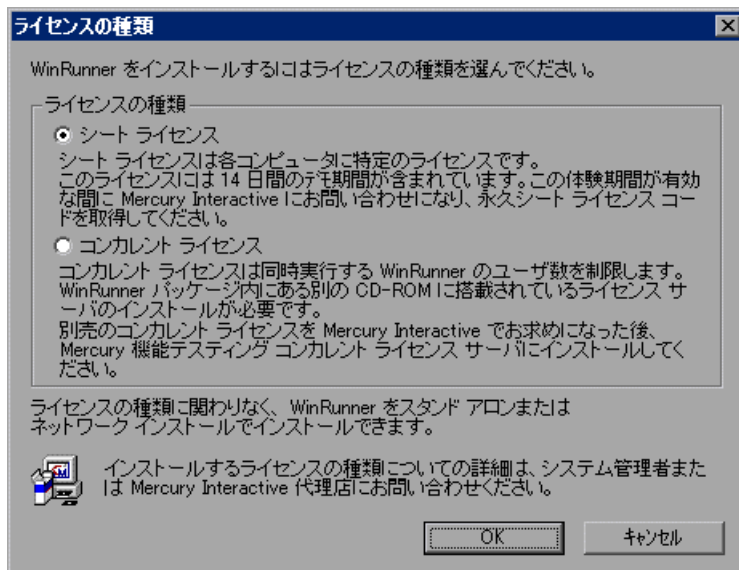
- 2** [**WinRunner のインストール**] をクリックします。インストールに使用する言語の選択ダイアログが表示されます。次に WinRunner のセットアップのスクリーン画面とセットアップの進行状況バーが表示されます。

旧バージョンの WinRunner がコンピュータにインストールされている場合、セットアップ・プログラムはそのライセンス設定を使用します。ライセンスの種類を変更する場合は、「ライセンスの種類の変更」の 60 ページを参照してください。手順 3 へ進みます。

WinRunner を初めてインストールする場合は、[ライセンスの種類] 画面が開きます。

注： [ライセンスの種類] 画面が開くのは、**autorun.exe** からインストールを行う場合のみです。**setup.exe** からインストールを行う場合、この画面は開きません。

ライセンスの種類を選択します。




- ▶ **[シート・ライセンス]** インストールしたコンピュータにのみ有効なライセンス。このライセンスには 14 日間の使用期限があり、この期限内に Mercury に連絡して永久シート・ライセンスを取得する必要があります。
- ▶ **[コンカレント・ライセンス]** ネットワーク上のライセンス・サーバによって WinRunner の同時実行ユーザの数が規制されます。ライセンス 1 件につき同時実行ユーザを 1 人追加する権利が与えられます。

注：コンカレント・ライセンスを使用して WinRunner をインストールする前に、インストールを実行するユーザまたはシステム管理者は、WinRunner パッケージの Mercury Functional Testing Concurrent License Server CD-ROM から、ネットワークにライセンス・サーバをインストールする必要があります。コンカレント・ライセンスは、Mercury から別途購入して、ネットワークのライセンス・サーバにインストールします。ネットワークへのコンカレント・ライセンス・サーバのインストールの詳細については、『*Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide (英語版)*』を参照してください。

ライセンスの種類の詳細については、「WinRunner のライセンスについて」の 50 ページを参照してください。どちらの種類のリソースをインストールすればよいかわからない場合は、システム管理者またはお近くの Mercury の代理店にお問い合わせください。

[OK] をクリックします。[製品ライセンス契約] 画面が表示されます。

- 3 契約内容を読みます。WinRunner をインストールするには、[はい] をクリックしてライセンス契約の条件に同意する必要があります。[いいえ] をクリックすると、セットアップ・プログラムが閉じます。
- 4 [登録情報] 画面で、名前、会社名、WinRunner のメンテナンス番号を入力します。この番号は、WinRunner の購入時に受け取る、メンテナンス・パック番号の封筒に入っている書面または送り状に記載されています。



登録情報

名前、会社名を入力して、WinRunner パッケージに付いているメンテナンス番号を入力して下さい。

名前 Mercury

会社名 Mercury Interactive

メンテナンス番号

< 戻る(B) 次へ(H) > キャンセル

メンテナンス番号は、購入された WinRunner の各コピー用の、かつてのシリアル番号に替わるものです。ユーザの各チームには 1 つのメンテナンス番号があります。

シリアル番号によってお客様の識別が行われ、お客様のライセンスでサポートされる機能とコンカレント・ライセンスで生成されるライセンス数が決まります。

[次へ] をクリックします。[登録確認] 画面が開きます。

- 5 **「はい」** をクリックして、登録情報を確定します。[インストールの種類] 画面が開きます。
- 6 インストールの種類を選択します。



次から選択します。

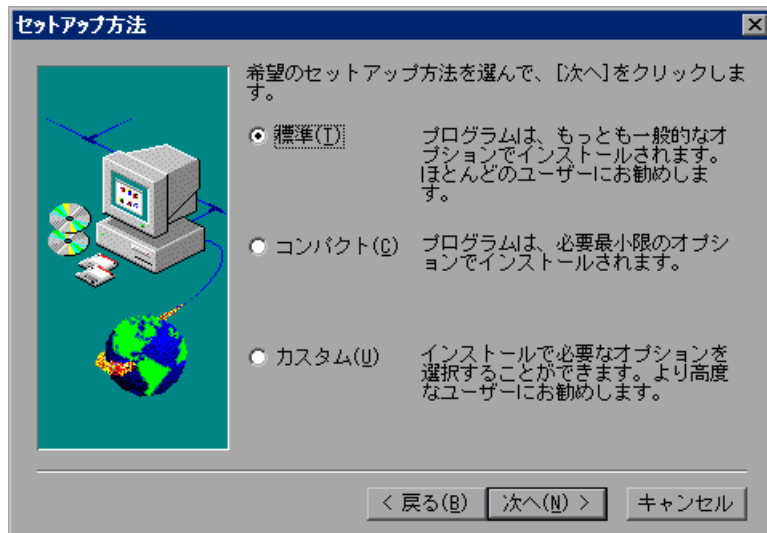
- ▶ **【スタンドアロン インストール】** ローカル・コンピュータのハードディスクに WinRunner をインストールします。
- ▶ **【ネットワーク インストール】** WinRunner のファイルをインストールして、他のユーザが簡略化されたワークステーション・インストールを実行できるようにし、各自のコンピュータでネットワーク・コンピュータにインストールされているソフトウェアを使用して WinRunner を実行できるようにします。
- ▶ **【ネットワーク インストール (ショートカットを追加)】** 上記のネットワーク・インストールを行い、[スタート] メニューにワークステーションのショートカットを追加して、ネットワーク・インストールの行われたコンピュータから WinRunner を実行できるようにします。

注：ネットワーク・インストールの場合、旧バージョンの WinRunner への上書きインストールはできません。WinRunner のネットワーク・インストールは、インストールされている旧バージョンを削除してから、あるいは旧バージョンとは別の場所で実行します。

Java アドインは WinRunner のネットワーク・インストールではインストールできません。Java アドインを使用する場合は、**[スタンドアロン インストール]** を選択します。

インストールの種類の詳細については、「インストール・タイプとライセンス・タイプの選択」の 8 ページを参照してください。どの種類のインストールを選択したらよいかわからない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

7 [次へ] をクリックします。[セットアップ方法] 画面が開きます。



インストールの方法を [標準], [コンパクト] または [カスタム] の中から選択します。

- ▶ **[標準]** インストールは、一般的に使用されるプログラム・ファイル（オンライン文書とサンプル、統一レポート、PowerBuilder、Visual Basic、ActiveX、および Web Test 環境などのアドイン・サポート）をインストールします。各 WinRunner セッションの開始時にロードするアドインを選択できます。アドイン・サポートのロードの詳細については、『*WinRunner Use's Guide (英語版)*』を参照してください。
- ▶ **[コンパクト]** インストールは、WinRunner の必須プログラム・ファイルだけをインストールします。オンライン文書とサンプル、統一レポート、PowerBuilder、Visual Basic、ActiveX、および Web Test 環境などのアドイン・サポートはインストールされません。
- ▶ **[カスタム]** インストールでは、インストールする機能を選択できます。

注： WinRunner のスタンドアロン・インストールでは、コンピュータに Microsoft ODBC 4 がインストールされます。

[次へ] をクリックします。[標準] または [コンパクト] インストールを選択した場合は、手順 9 に進んでください。

- 8 [カスタム]** インストールを選択した場合は、[機能の選択] 画面が開きます。インストールする機能を選択します。



すべての機能をインストールすることも、特定の機能やアドインのみを選択してインストールすることもできます。次の中から選択します。

- ▶ **[WinRunner]** 基本の WinRunner プログラムをインストールします。一覧にある他の機能をインストールするには、WinRunner 機能をインストールする必要があります。
- ▶ **[Unified Report]** WinRunner テスト結果を HTML 形式の QuickTest スタイル・レポートで表示できます。

注： QuickTest Professional 6.5 以降から WinRunner テストを呼び出して、WinRunner イベントの詳細な結果を表示する場合は、この機能をインストールする必要があります。

- ▶ **[Samples]** サンプル WinRunner テストのコレクションが含まれています。
- ▶ **[Online Documentation]** WinRunner の全機能を学習し、十分に活用できるようにするための、ヘルプと PDF の文書が含まれます。

▶ 次のアドインがあります。

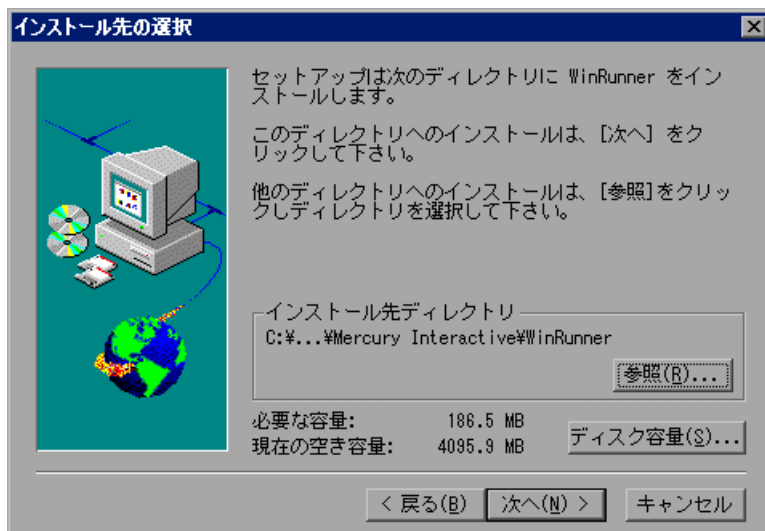
- ▶ Visual Basic
- ▶ PowerBuilder
- ▶ ActiveX コントロール
- ▶ WebTest

この画面で、WinRunner の [インストール先ディレクトリ] を指定することもできます。標準設定の場所をそのまま使用することも、新しいフォルダの場所を入力または参照することもできます。

指定したディスク・ドライブで使用できる容量を確認するには、[ディスク容量] をクリックします。

[次へ] をクリックして、手順 10 に進みます。

- 9 [標準] または [コンパクト] インストールを選択した場合は、[インストール先の選択] 画面が開きます。[参照] をクリックして、インストール先フォルダを指定するか、標準設定のフォルダを使用します。ディスク・ドライブで使用できる容量を確認するには、[ディスク容量] をクリックします。



[次へ] をクリックします。[機能の更新] 画面が開きます。

10 Mercury Web サイトで、更新された機能がないか調べることができます。



次のいずれかのオプションを選択します。

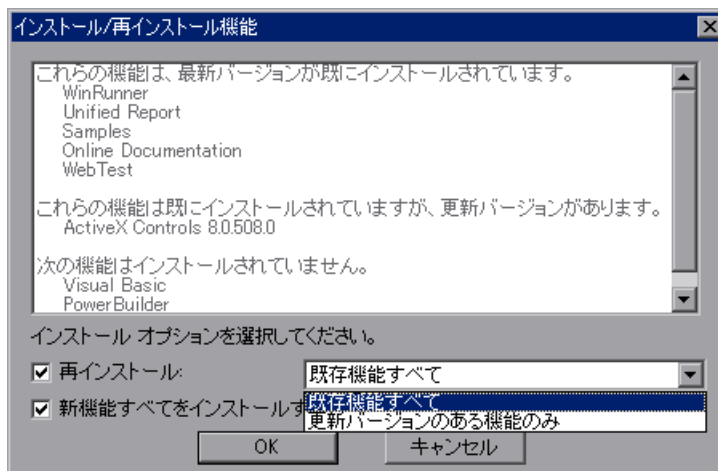
- ▶ 更新されたコンポーネントを Mercury Web サイトで確認するには、**[はい]** をクリックします。
- ▶ 更新された機能の確認を行わずに CD-ROM から機能をインストールする場合は、**[いいえ]** をクリックします。
- ▶ ローカル・ネットワークのフォルダに、更新された機能がすでにダウンロードされていることが判明している場合のみ、**[ローカルのアップデート フォルダを使用]** を選択します。このオプションの詳細については、32 ページを参照してください。

[次へ] をクリックします。

[機能の更新] 画面で **[はい]** を選択した場合は、インストール中に Mercury の Web サイトの更新されたコンポーネントの確認が行われます。Web サイトに CD-ROM よりも新しい機能がある場合、セットアップ・プログラムは、CD-ROM の機能を Web サイトにある機能で上書きするためのプロンプトを表示します。Web サイトに新しい機能がなければ、セットアップ・プログラムはすべての機能を CD-ROM からインストールします。

注：インストール中に Web サイトにアクセスできない場合は、[再試行] をクリックして、Web サイトに再接続を試みることができます。[キャンセル] をクリックすると、セットアップ・プログラムは、CD-ROM から WinRunner 機能をインストールします。

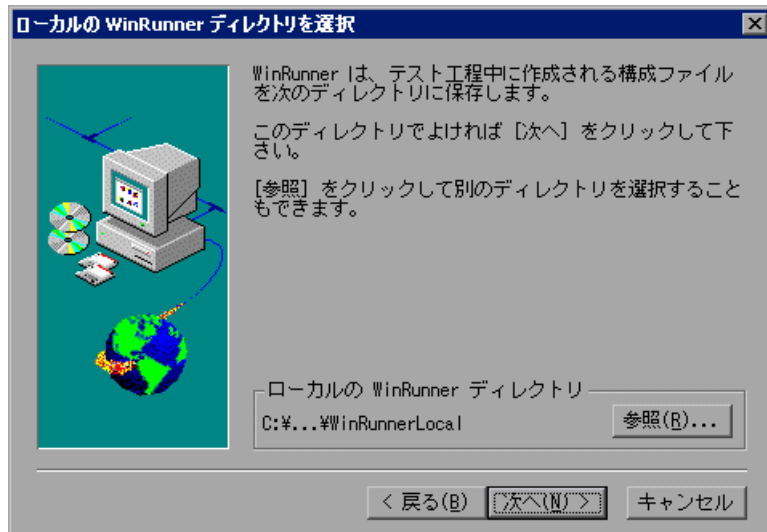
- 11** WinRunner をインストールされている旧バージョンに上書きインストールしようとしている場合は、[インストール/再インストール機能] 画面が開きます。



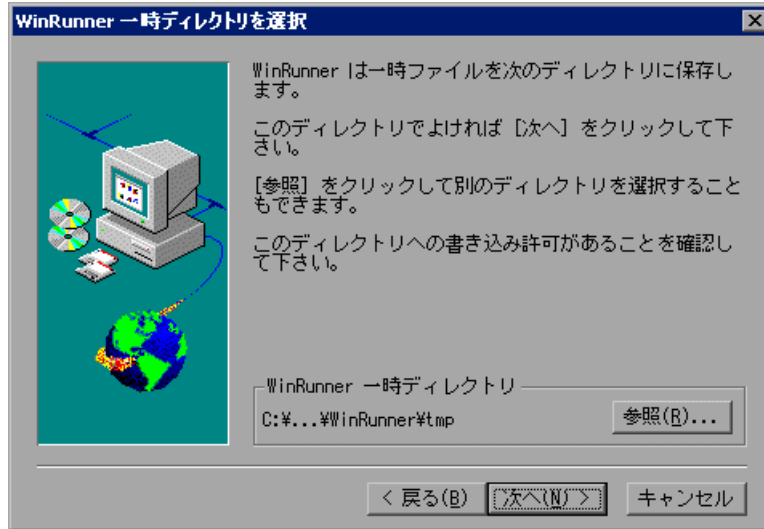
- ▶ 既存の機能を再インストールする場合は、[再インストール] チェック・ボックスを選択して、**既存機能すべて**または**更新バージョンのある機能のみ**のどちらかを再インストールするか決定します。
- ▶ まだインストールされていない機能をインストールするには、[新機能すべてをインストールする] を選択します。

[OK] をクリックします。手順 6 で [ネットワーク インストール (ショートカットを追加)] を選択した場合は、次のステップに進みます。そうでない場合は手順 13 に進みます。

- 12** 手順 6 の [インストールの種類] 画面で [ネットワーク インストール (ショートカットを追加)] を選択した場合, [ローカルの WinRunner ディレクトリを選択] 画面が開きます。ローカル WinRunner フォルダの場所を選択します。このフォルダにより WinRunner が特定のテスト要件を満たしつつ, ネットワーク経由で共有バージョンを実行するようになります。

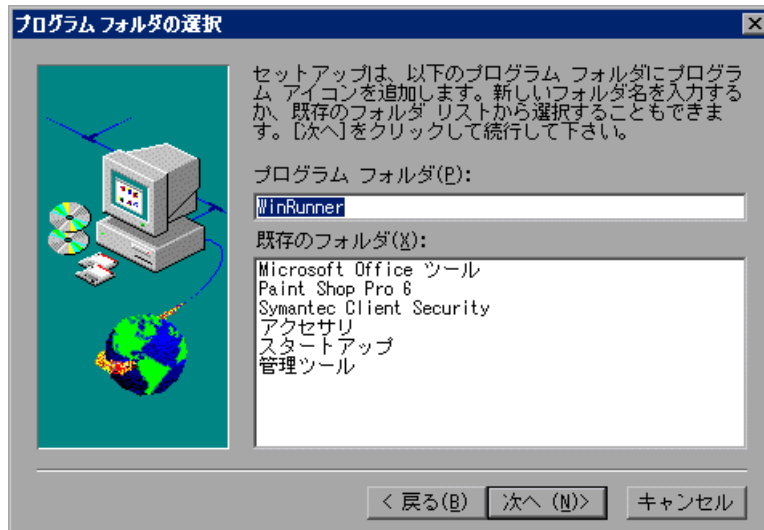


- 13** [次へ] をクリックします。[一時ディレクトリを選択] 画面が開きます。



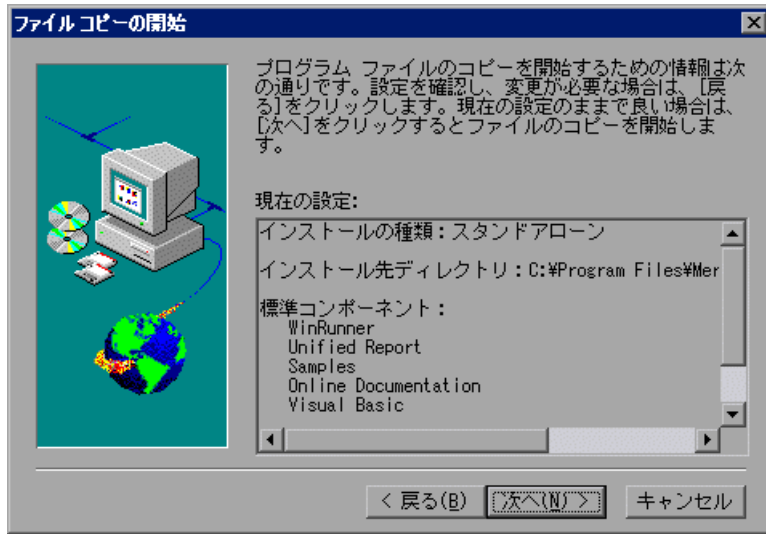
WinRunner の一時フォルダの場所を選択します。

- 14** [次へ] をクリックします。[プログラム フォルダの選択] 画面が開きます。



WinRunner アイコンのプログラム・フォルダを選択または入力します。

15 [次へ] をクリックします。[ファイルコピーの開始] 画面が開きます。

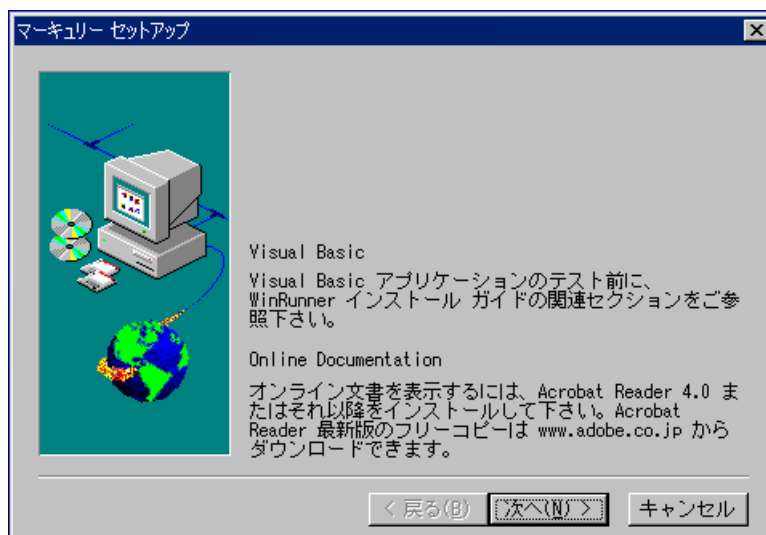


選択したインストールの設定を確認します（読み取り専用形式で表示されます）。

別の設定を選択するには、[戻る] をクリックします。設定に問題がない場合は、[次へ] をクリックします。

インストールが始まります。セットアップ・プロセスを中断、または終了するには、[キャンセル] をクリックします。

- 16** Visual Basic サポートまたはオンライン・マニュアルをインストールした場合は、セットアップ・プロセスが完了した時点で [マーキュリーセットアップ] 画面が表示されます。



画面の情報を読み、[次へ] をクリックします。[ライセンス情報] 画面が開きます。

17 インストールしたライセンスの種類に関する内容を読みます。

- ▶ **【シート・ライセンス】** 各 WinRunner コンピュータに独自のライセンスが必要です。コンピュータに初めてインストールされた WinRunner には 14 日間のデモ・ライセンスが含まれます。この期間中に、Mercury に連絡して、コンピュータ用の永久ライセンスを取得する必要があります。WinRunner の起動時または WinRunner の [ヘルプ] メニューから、永久ライセンスをインストールできます。詳細については、「WinRunner のライセンスに関する作業」の 48 ページを参照してください。

注：デモ・ライセンスで WinRunner を実行しているコンピュータでは、日付を変更しないでください。

- ▶ **【コンカレント・ライセンス】** ネットワーク上のライセンス・サーバによって WinRunner の同時実行ユーザの数が規制されます。これにより、ネットワーク上のどのコンピュータでも WinRunner を実行できます。このためには、WinRunner パッケージの Mercury Functional Testing Concurrent License Server CD-ROM から、コンカレント・ライセンス・サーバとコンカレント・ライセンスをインストールする必要があります。詳細については、『*Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide (英語版)*』を参照してください。

[次へ] をクリックします。[登録情報] 画面が開きます。

18 Mercury のカスタマー・サポートに関する情報を読みます。

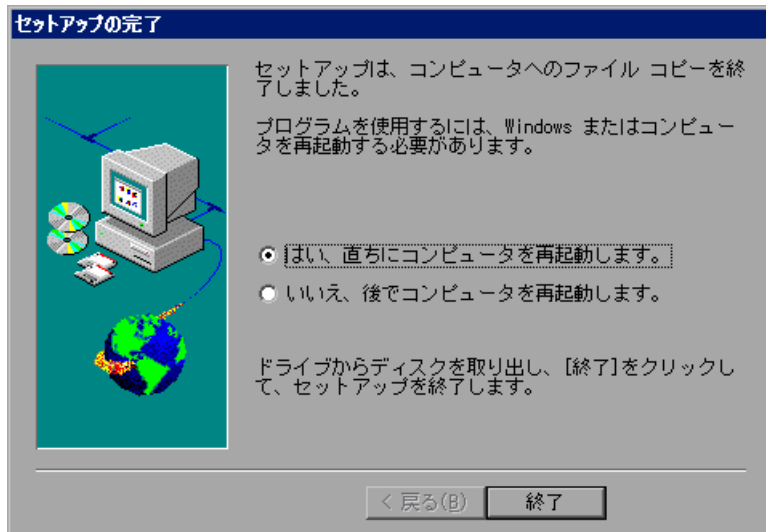
登録すると、次のような特典があります。

- ▶ 購入された製品のバージョンアップ情報
- ▶ 弊社主催のイベントやセミナー情報
- ▶ その他弊社ならびに弊社製品に関する最新情報

すぐに登録するには、[今すぐ登録する] チェック・ボックスが選択されていることを確認します。[次へ] をクリックします。ブラウザが起動し、Mercury のカスタマー・サポート・サイト (<http://www.mercury.com/jp/services/support>) が表示されます。カスタマー・サポート・サイトの指示に従います。

後から登録するには、[今すぐ登録する] チェック・ボックスをクリアします。

- 19 [次へ] をクリックして、WinRunner のインストールを終了します。[セットアップの完了] 画面で、コンピュータを再起動するよう求められます。



- 20 [終了] をクリックしてセットアップ・プロセスを完了します。

注：すぐにコンピュータを再起動することをお勧めします。システムの再起動を遅らせるとシステムが予期しない振る舞いをする可能性があります。

- 21 WinRunner のネットワーク・インストールをインストールした場合、すべてのワークステーションでワークステーション・インストールを実行します。詳細については、「ワークステーション・インストールの実行」の 30 ページを参照してください。

WinRunner が正常にインストールされたら、次を実行できます。

- ▶ 最新情報を参照するには、**[スタート] > [プログラム] > [WinRunner] > [Read Me]** を選択します。ワードパッドで Readme ファイルが表示されます。
- ▶ WinRunner の PDF 形式のマニュアルを表示するには、Acrobat Reader 4.0 以降がインストールされている必要があります。オンライン・マニュアルを表示するには、**[スタート] > [プログラム] > [WinRunner] > [Documentation] > [Printer-Friendly Documentation]** を選択します。
- ▶ WinRunner を起動するには、**[スタート] > [プログラム] > [WinRunner] > [WinRunner]** を選択します。



ネットワーク・インストールへのコンポーネントの追加

ワークステーション・インストールを有効にして追加の WinRunner アドインと連携させる場合は、ワークステーション・インストールを実行する前に、ネットワーク・インストールにアドインをインストールします。

ワークステーション・インストール完了後に WinRunner CD から追加機能をインストールするまたはネットワーク・インストールに外部 WinRunner アドインを追加してインストールする場合は、ワークステーション・インストールした WinRunner をすべてアンインストールしてから、ワークステーション・インストールを再実行して、使用可能なアドインの新しいセットで各ワークステーションを更新する必要があります。

最初のインストール時に **[ネットワーク インストール (ショートカットを追加)]** を選択して、ネットワーク・インストールのコンピュータに WinRunner をワークステーション・インストールしている場合、機能やアドインを更新するためには、そのワークステーション・インストールもアンインストールして再インストールする必要があります。

注： ネットワーク・インストールとワークステーション・インストールでは、WinRunner Java アドインはサポートされていません。

WinRunner CD から追加機能をインストールする方法の詳細については、「WinRunner 機能の追加」の 81 ページを参照してください。外部アドインのインストールの詳細については、WinRunner アドインのインストール・ガイドを参照してください。

ワークステーション・インストールの実行

ワークステーション・インストールは、ネットワークから WinRunner を実行する各ユーザに対して実行する必要があります。このインストールが実行できるのは、すべてのアドインのインストールを含む、ネットワーク・インストールが正しく完了した後のみです。詳細については、「スタンドアロン・インストールまたはネットワーク・インストールの実行」の 11 ページおよび「ネットワーク・インストールへのコンポーネントの追加」を参照してください。

注：ワークステーション・インストールでは、WinRunner アドインはインストールされません。ワークステーション・インストールを行うと、ネットワーク・インストールにすでにインストールされているすべてのアドインは、自動的にワークステーション・インストールで使用可能になります。

ワークステーション・インストール完了後に、WinRunner CD の追加機能または追加の WinRunner アドインをインストールする場合は、現在のワークステーション・インストールをアンインストールしてから、ワークステーション・インストールを再実行して、新しい機能、または使用可能なアドインの新しいセットでワークステーションを更新する必要があります。

ワークステーション・インストールを行うには、次の手順を実行します。

- 1 ネットワーク・インストールがインストールされているネットワーク・ドライブの割り当てを行います。
- 2 **[スタート] > [実行]** をクリックします。
- 3 **<ネットワーク・インストールのフォルダ> %setup%setup.exe** と入力し、インストールに使用する言語の選択ダイアログが表示されます。次に **[OK]** をクリックします。WinRunner のセットアップ・プログラムが起動します。WinRunner のセットアップの画面とセットアップの進行状況バーが表示されます。製品ライセンス契約画面が開きます。
- 4 契約内容を読みます。WinRunner をインストールするには、**[はい]** をクリックしてライセンス契約の条件に同意する必要があります。**[いいえ]** をクリックすると、セットアップ・プログラムが閉じます。
- 5 **[登録情報]** ダイアログ・ボックスでユーザ名を入力し、**[次へ]** をクリックします。

- 6 [登録確認] 画面で [はい] をクリックして、登録情報を確定します。
- 7 ワークステーション・インストールのメッセージを確認し、[次へ] をクリックします。
- 8 ローカル WinRunner フォルダの場所を定義して、[次へ] をクリックします。

注：ハードディスクの WinRunner のフォルダは、テスト・プロセス中にユーザが作成する設定ファイルの格納に使用されます。このフォルダの設定ファイルがネットワーク上の同じ名前の設定ファイルよりも優先されるので、WinRunner を特定のテスト要件に合わせて設定できます。

- 9 WinRunner の一時フォルダの場所を選択します。セットアップにより、システム・ファイルが更新され、インストールされます。[次へ] をクリックします。
- 10 WinRunner アイコンのプログラム・フォルダを選択し、[次へ] をクリックします。
- 11 コンピュータを再起動します。[スタート] メニューに、[WinRunner] プログラム・フォルダが追加されます。

注：コンピュータを再起動する前に WinRunner を起動しようとしても、WinRunner は正しく実行できません。

コンピュータを再起動した後は、まず WinRunner のインストール中に使用したものと同一ログイン名でログインする必要があります。

WinRunner が正常にインストールされたら、次を実行できます。

- ▶ 最新情報を参照するには、[スタート] > [プログラム] > [WinRunner] > [Read Me] を選択します。ワードパッドで Readme ファイルが表示されます。
- ▶ WinRunner のマニュアル (PDF) を表示するには、Acrobat Reader 4.0 以降がインストールされている必要があります。オンライン・マニュアルを表示するには、[スタート] > [プログラム] > [WinRunner] > [Documentation] > [Printer-Friendly Documentation] を選択します。
- ▶ WinRunner を起動するには、[スタート] > [プログラム] > [WinRunner] > [WinRunner] を選択します。



更新用のローカル・ネットワーク・ドライブの使用

Mercury の Web サイトから WinRunner のインストールの更新をネットワーク・ドライブにダウンロードした後、組織内でインストールするすべての WinRunner のローカル・ネットワーク・ドライブにアクセスできます。

更新をローカル・ネットワーク・ドライブにダウンロードするには、次の手順を実行します。

- 1 インストールに使用する言語の選択ダイアログが表示されます。次に CD ドライブに CD-ROM を挿入し、**< CD ドライブ > ¥update.exe** を実行します。
[アップデート ファイルのダウンロード] 画面が開きます。
- 2 WinRunner の更新ファイル用のローカル・ネットワーク・ドライブを選択し、**[次へ]** をクリックします。



セットアップにより、ファイルのダウンロードが始まります。ダウンロードが完了すると、[更新ダウンロードの完了] 画面が開きます。

注： update.exe を実行すると、更新の内容やバージョンに関係なく、公開されたすべての更新がプログラムによりダウンロードされます。ただし、WinRunner のインストール中に、ローカル・ネットワーク・ドライブから更新をインストールする場合は、Web サイトからのダウンロードと同じように、セットアップ・プログラムによりダウンロードが行われます。インストールされる機能は、現在のインストールの一部であり、CD-ROM 上の機能よりも新しい機能のみです。

- 3 [完了] をクリックします。更新がローカル・ネットワーク・ドライブにダウンロードされたら、インストールされている WinRunner からそのドライブにリンクして、更新をローカルにダウンロードできます。

WinRunner のインストール中に、ローカル・ネットワーク・ドライブから更新をダウンロードするには、次の手順を実行します。

- 1 WinRunner のインストール中に開く [機能の更新] 画面で、[ローカルのアップデート フォルダを使用] を選択します。



[ダウンロードされたアップデート ファイルへのパスの選択] 画面が開きます。

- 異なるパスを選択するには、[参照] ボタンをクリックして、更新が保存されるパスを選択します。[次へ] をクリックします。



インストール・プログラムにより、指定したネットワーク・フォルダで、更新された機能が確認されます。CD-ROM 上の機能よりも新しい機能が更新フォルダにある場合、セットアップにより、CD-ROM の機能を更新フォルダの機能で置き換えるプロンプトが表示されます。チェックが完了すると、インストール・プログラムは、21 ページの手順 11 で説明されている手順を継続します。

サイレント・インストールのセットアップ

WinRunner のセットアップ・アプリケーションでサイレント・インストールを実行できます。この場合、セットアップ・プロセス全体がバックグラウンドで実行されるので、ユーザはセットアップ画面を操作する必要がありません。サイレント・インストールを実行する前に、インストールを実行するユーザ（またはシステム管理者）は、同じ構成のコンピュータ上で、WinRunner のスタンドアロン・インストールの設定を記録する必要があります。サイレント・インストールでインストールされるのは、記録された設定と同一のコピーです。

スタンドアロン・インストールの記録

スタンドアロン・インストールの記録は、後でサイレント・インストールを実行するコンピュータと設定が同一のコンピュータで行います。コンピュータの設定には次が含まれなければなりません。

- ▶ 同一のオペレーティング・システム
- ▶ インストール・ファイルのドライブ文字

また、どちらのコンピュータにもサイレント・インストールの実行前に WinRunner がインストールされてはなりません。

注： どちらかのコンピュータにすでに WinRunner インストールされていた場合は、サイレント・インストール・プロセスを始める前に WinRunner をアンインストールして、両方のコンピュータの設定を同じにする必要があります。

Web からインストールの更新をダウンロードする場合は、スタンドアロン・インストールの記録を行う前に、「更新用のローカル・ネットワーク・ドライブの使用」の 32 ページの手順に従う必要があります。

スタンドアロン・インストールを記録するには、次の手順を実行します。

- 1 WinRunner のインストール用 CD の内容を、ネットワーク・コンピュータの共有フォルダ（<共有 CD フォルダ>）にコピーします。

- 2 インストールを記録するコンピュータ（記録元コンピュータ）から **[スタート] > [ファイル名を指定して実行]** を選択し、次のコマンド行を入力してインストールを開始します。
 - ▶ シート・ライセンスで WinRunner をインストールする場合は、**<共有 CD フォルダ> ¥setup¥setup.exe -r** と入力します。
 - ▶ コンカレント・ライセンスで WinRunner をインストールする場合は、**<共有 CD フォルダ> ¥setup¥english¥setup.exe LICENSE_FLOATING -r** と入力します。
- 3 **[OK]** をクリックします。WinRunner のインストールが始まります。WinRunner のインストール方法の詳細については、「スタンドアロン・インストールまたはネットワーク・インストールの実行」の 11 ページを参照してください。インストールの記録中、次のことを行います。
 - ▶ **[インストールの種類]** 画面で **[スタンドアロンインストール]** を選択します。
 - ▶ インストール先フォルダを要求するすべての画面では、すべてのサイレント・インストールのユーザがコンピュータ上で適切に割り当てたドライブ文字を必ず選択します。選択したインストール先フォルダがコンピュータ上にすでに存在する場合は、そのフォルダがすべてのサイレント・インストール・ユーザに対して存在することを確認します。選択したフォルダが新しいフォルダである場合は、そのフォルダがすべてのユーザに対して新しいフォルダであることを確認します。
 - ▶ 既にダウンロードされた更新機能がローカル・フォルダにある場合は、**[機能の更新]** 画面で **[いいえ]** を選択するか、**[ローカルのアップデート フォルダを使用]** を選択します。（**[はい]** を選択して、インストールの記録中に Web に接続し Web からダウンロードすると、サイレント・インストール・ユーザは一部のダイアログ・ボックスと Web ページに応答する必要があるため、完全なサイレント・インストールにはなりません）。
 - ▶ **[ユーザ登録]** 画面で **[今すぐ登録する]** チェック・ボックスをクリアします。後でカスタマー・サポートの Web サイトで登録します。（**[今すぐ登録する]** チェック・ボックスを選択すると、サイレント・インストール・ユーザは一部のダイアログ・ボックスと Web ページに応答する必要があるため、完全なサイレント・インストールにはなりません）。
 - ▶ **[セットアップの完了]** 画面で、**[はい、直ちにコンピュータを再起動します]** を選択し、サイレント・インストールの最後にユーザのコンピュータを再起動することで、インストール・プロセスを確実に完了させることをお勧めします。

- 4 コンピュータの再起動後、記録元コンピュータの Windows フォルダから **<共有 CD フォルダ> ¥setup¥english** に、**setup.iss** ファイルをコピーします。

サイレント・インストールの実行

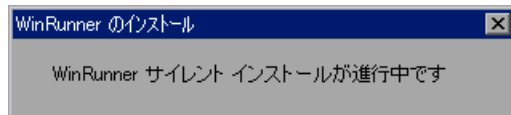
記録されたスタンドアロン・インストールに基づいて、WinRunner をサイレント・インストールできます。これにより、インストール画面で操作することなく、記録されたインストールと同じインストールのオプションと機能を使用して、コンピュータに WinRunner をインストールできます。

サイレント・インストールは、次の手順で行います。

- 1 サイレント・インストールを実行する前に、開いているファイルをすべて保存し、開いているすべてのアプリケーションを閉じることをお勧めします。

重要：記録されたインストールの最後に、お勧めしたとおりに **[はい、直ちにコンピュータを再起動します]** オプションが含まれている場合は、サイレント・インストールの最後でコンピュータが自動的にシャットダウンし、再起動します。

- 2 WinRunner のサイレント・インストールを実行するコンピュータで、**[スタート] > [実行]** を選択し、サイレント・インストールを実行するための次のコマンド行を入力します。
 - ▶ シート・ライセンスの場合は、次のように入力します。
 <共有 CD フォルダ> ¥setup¥setup.exe -s
 - ▶ コンカレント・ライセンスの場合は、次のように入力します。
 <共有 CD フォルダ> ¥setup¥english¥setup.exe LICENSE_FLOATING -s
- 3 **[OK]** をクリックします。バックグラウンドでインストールが開始されます。インストールには数分かかります。インストール中は、次のメッセージが表示されています。



- 4 サイレント・インストールが完了すると、このメッセージ・ボックスが閉じます。
- ▶ 記録されたインストールの最後に **「はい、直ちにコンピュータを再起動します」** オプションが含まれている場合（推奨）は、サイレント・インストールの完了時にコンピュータが自動的に再起動されます。
 - ▶ 記録されたインストールの最後に **「いいえ、後でコンピュータを再起動します」** オプションが含まれている場合は、サイレント・インストールの完了時に WinRunner プログラム・グループのウィンドウが開き、WinRunner プログラムのアイコンが表示されます。
 - ▶ WinRunner プログラム・グループのウィンドウが開いた場合は、WinRunner を使用する前に、手動でコンピュータを再起動する必要があります。コンピュータを再起動する前に WinRunner を起動しようとしても、WinRunner は正しく実行できません。
 - ▶ サイレント・インストールのメッセージが閉じても、コンピュータが再起動せず、WinRunner プログラム・グループも開かない場合は、サイレント・インストールは失敗しています。詳細については、システム管理者に相談するか、この後の「サイレント・インストールのトラブルシューティング」を参照してください。

サイレント・インストールのトラブルシューティング

サイレント・インストールを行う場合、インストールを記録するコンピュータと、サイレント・インストールを実行するすべてのコンピュータの設定が同じである必要があります。1つまたは複数の設定要素が異なる場合は、サイレント・インストールはインストール・プロセスを完了せずに実行を停止します。

サイレント・インストールに失敗した場合は、以下の項目を確認します。

- ▶ **記録用のコンピュータまたはサイレント・インストールを実行するコンピュータに、WinRunner がインストールされていなかったか。**

記録用のコンピュータとサイレント・インストールを実行するコンピュータで、WinRunner の設定が異なる場合は、サイレント・インストールは失敗します。この場合、サイレント・インストールが進行中であることを示すメッセージは、開いた直後に閉じます。

どちらかのコンピュータにすでに WinRunner インストールされていた場合は、サイレント・インストール・プロセスを始める前に WinRunner をアンインストールして、両方のコンピュータの設定を同じにする必要があります。

- ▶ **サイレント・インストール を実行するコンピュータで使用するドライブ文字は、記録用のコンピュータでインストール先フォルダに使用したドライブ文字と同じか。**

サイレント・インストールを実行するとき、セットアップ・プログラムは、WinRunner のファイルを記録用コンピュータで選択したのと同じパスにインストールしようとしています。サイレント・インストールを実行するコンピュータで同じドライブ文字を使用できない場合、サイレント・インストールは失敗します。

- ▶ **一方のコンピュータにしか存在しないインストール先フォルダを選択していないか。**

新しいインストール先フォルダを選択すると、セットアップ・プログラムは、新しいフォルダを作成するかどうかを尋ねます。既存のフォルダを選択すると、セットアップ・プログラムは新しいフォルダを作成しません。一方のコンピュータでフォルダの新規作成のメッセージが必要で、他方では必要ない場合、サイレント・インストールは失敗します。

- ▶ **両方のコンピュータで使われているオペレーティング・システムは同じか。**

使用されているオペレーティング・システムのために、一方のコンピュータでだけ必要なステップがある場合、サイレント・インストールは失敗します。

- ▶ **インストールの記録中に、[機能の更新] 画面で [はい] (標準では選択)、または [ユーザ登録] 画面で [今すぐ登録する] (標準では選択) を選択していないか。**

これらのオプションは、ユーザによる入力が必要とします。したがって、インストールはサイレントとはなりません。インストールを記録する際には、[機能の更新] 画面では [いいえ] または [ローカルのアップデート フォルダを使用] を選択し、[ユーザ登録] 画面では [今すぐ登録する] チェック・ボックスをクリアすることをお勧めします。

- ▶ **WinRunner を実行する前に、サイレント・インストール・コンピュータを再起動したか。**

サイレント・インストール終了時にコンピュータが自動的に再起動しておらず、WinRunner の実行前にコンピュータを手動で再起動していなければ、WinRunner は正しく実行できません。

本節で説明したトラブルシューティングの全項目を確認しても、サイレント・インストールを正しく実行できない場合は、Mercury のカスタマー・サポートにお問い合わせください。

DCOM アクセス許可設定の変更による WinRunner リモート実行の有効化

Quality Center から WinRunner テストをリモートで実行する場合、まず DCOM アクセス許可の設定およびセキュリティ設定を変更して、WinRunner コンピュータのファイアウォール・ポートを開く必要があります。これらの変更は、自動または手動で実行できます。Quality Center から WinRunner テストをリモートで実行しない場合は、これらの変更を行う必要はありません。これらの変更は、Windows XP サービス・パック 2 以降、Windows 2003 サーバ・サービス・パック 1 以降、または Windows Vista で WinRunner を実行している場合のみ必要です。

この節では次の項目について説明します。

- ▶ 「Windows でのリモート・ユーザ認証の有効化」の 41 ページ
- ▶ 「DCOM アクセス許可設定とセキュリティ・プロパティの自動による変更」の 41 ページ
- ▶ 「DCOM アクセス許可設定とセキュリティ・プロパティの手動による変更」の 42 ページ

注： この節で説明するセキュリティの変更は、システム管理者が行う必要があります。Windows XP、Windows 2003 サーバまたは Windows Vista での DCOM セキュリティの変更について不明点がある場合は、Microsoft のサポートにお問い合わせください。

次の手順を行うだけでなく、テストをリモートで実行する前に、WinRunner の [一般オプション] ダイアログ・ボックスにある **[実行]** カテゴリで、**[その他の Mercury 製品によるテストのリモート実行を許可する]** オプションを選択していることを確認してください。詳細については、『*Mercury WinRunner Users Guide (英語版)*』を参照してください。

Windows でのリモート・ユーザ認証の有効化

この手順では、Windows で、DCOM オブジェクトのテストを実行するリモート・ユーザの認証を有効にします。

Windows でリモート・ユーザの認証を有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 同じドメインに両方のマシンを追加します。
- 2 両方のマシンにログインしたドメイン・ユーザについて、それらのドメイン・ユーザを WinRunner コンピュータのローカル管理者グループに追加します。

DCOM アクセス許可設定とセキュリティ・プロパティの自動による変更

この手順では、自動的に DCOM アクセス許可を設定してファイアウォール・ポートを開き、WinRunner のリモート実行を有効にする方法について説明します。

注： これらのオプションを自動的に設定するように選択した場合に WinRunner が行う変更に関する詳細は、「DCOM アクセス許可設定とセキュリティ・プロパティの手動による変更」の 42 ページの手順を参照してください。

DCOM アクセス許可およびセキュリティ・プロパティを自動的に変更するには、次の手順を実行します。

- 1 WinRunner をインストールした後、WinRunner インストール CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。CD ドライブがローカル・コンピュータにある場合、[WinRunner インストール] ウィンドウが開きます。

ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、ネットワーク・ドライブに接続し、**¥setup** サブディレクトリにある **autorun.exe** をダブルクリックします。[WinRunner インストール] ウィンドウが開きます。

- 2 [参照] をクリックして CD の内容を表示します。
- 3 **dcom** フォルダを開き、**WRRmtAgentFix.exe** をダブルクリックします。DCOM アクセス許可設定およびセキュリティ設定が自動的に設定され、コンピュータのファイアウォール・ポートが開いて WinRunner のリモート実行が有効になります。プロセス中に進捗状況バーが表示されます。

プロセスが完了すると、DCOM 設定が正常に変更された旨を示すメッセージが表示されます。設定中にエラーが発生した場合は、メッセージに設定ログ・ファイルへのパスが表示されます。

- 4 [OK] をクリックします。

DCOM アクセス許可設定とセキュリティ・プロパティの手動による変更

この節では、手動で DCOM アクセス許可を設定してファイアウォール・ポートを開き、WinRunner のリモート実行を有効にする方法について説明します。

Windows ファイアウォールを設定して、DCOM 用のポート 135 を有効にするには、次の手順を実行します。

注： Windows XP サービス・パック 2 または Windows Vista にインストールされているファイアウォールを無効にした場合、この手順に記述されているとおりに DCOM のポート 135 を開く必要はありません。

- 1 WinRunner コンピュータで、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [Windows ファイアウォール] を選択します。[Windows ファイアウォール] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [例外] タブを選択します。
- 3 [プログラムの追加] をクリックします。[プログラムの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 [Remote Agent] (< WinRunner のインストール先フォルダ > %arch%\wrrmtsrv.exe) を選択または参照して、[OK] をクリックします。

注： 上記のように Remote Agent を例外に設定しないと、テストをリモートで実行したときに Windows セキュリティ警告メッセージが表示されます。[ブロックを解除する] をクリックして、この問題を解決します。次回自動テストをリモートで実行したときに、この警告は表示されません。

- 5 [OK] をクリックして、[Windows ファイアウォール] ダイアログ・ボックスを閉じます。

注： 詳細については、次の Web サイトにある一般的に使用されるサービスのポート割り当てリストを参照してください。http://www.microsoft.com/resources/documentation/Windows/2000/server/reskit/en-us/Default.asp?url=/resources/documentation/windows/2000/server/reskit/en-us/cnet/cnfc_por_SIMW.asp

DCOM セキュリティ・プロパティを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] > [実行] を選択し、**dcomcnfg** を入力して ENTER キーを押します。[コンポーネント サービス] ウィンドウが表示されます。
- 2 [コンソール ルート] > [コンポーネント サービス] > [コンピュータ] > [マイ コンピュータ] に移動します。

注： Windows セキュリティ警告メッセージが表示されたら、[後で確認する] または [ブロックを解除する] をクリックします。

- 3 [マイ コンピュータ] を右クリックし [プロパティ] を選択します。
- 4 [既定のプロパティ] タブを選択します。
- 5 [既定の偽装レベル] が [識別する] になっていることを確認して、[適用] をクリックします。
- 6 [COM セキュリティ] タブを選択します。
- 7 [アクセス許可] エリアで、[制限の編集] をクリックします。[アクセス許可] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 8 [追加] をクリックします。[ユーザーまたはグループの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 9 [詳細設定] をクリックします。
- 10 [場所] をクリックします。表示されたダイアログ・ボックスで、使用中のコンピュータ名を選択して [OK] をクリックします。

- 11 **[今すぐ検索]** をクリックします。
- 12 ローカル・マシンから次のユーザおよびグループを選択して、**[OK]** をクリックします。
 - ▶ Administrator
 - ▶ Administrators
 - ▶ Authenticated Users
 - ▶ Anonymous Logon
 - ▶ Everyone
 - ▶ Interactive
 - ▶ Network
 - ▶ System
- 13 ドメインから次のユーザを追加して **[OK]** をクリックします。
 - ▶ <WinRunner コンピュータにログインしたドメイン・ユーザ>
 - ▶ <リモート実行を行っている Quality Center コンピュータにログインしたドメイン・ユーザ>
- 14 [アクセス許可] ダイアログ・ボックスで、リストのグループとユーザに **[ローカル アクセス]** および **[リモート アクセス]** 許可を割り当てて、**[OK]** をクリックします。
- 15 [起動とアクティブ化のアクセス許可] エリアで、**[制限の編集]** をクリックします。[起動許可] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 16 手順 8 ~ 13 を繰り返します。
- 17 [アクセス許可] ダイアログ・ボックスで、リストのグループとユーザに **[ローカルからの起動]**、**[リモートからの起動]**、**[ローカルからのアクティブ化]** および **[リモートからのアクティブ化]** 許可を割り当てて、**[OK]** をクリックします。

WinRunner Remote Agent DCOM アプリケーションにセキュリティ設定を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [コンポーネント サービス] ウィンドウで、[コンソール ルート] > [コンポーネント サービス] > [コンピュータ] > [マイ コンピュータ] > [DCOM の構成] を選択します。
- 2 項目 {0B171F02-F204-11D0-9398-0080C837F11F} を右クリックして、[プロパティ] を選択します。[{0B171F02-F204-11D0-9398-0080C837F11F} のプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [ID] タブで、[対話ユーザー] を選択します。これにより、COM アプリケーションは、ログインした Windows ユーザにプロセスを認証し、そのセキュリティ・コンテンツでプロセスを実行できるようになります。
- 4 [セキュリティ] タブを選択します。
- 5 [起動とアクティブ化のアクセス許可] エリアで、[カスタマイズ] を選択して [編集] をクリックします。[起動許可] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 6 [追加] をクリックします。[ユーザーまたはグループの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 7 [詳細設定] をクリックします。
- 8 [場所] をクリックします。表示されたダイアログ・ボックスで、使用中のコンピュータ名を選択して [OK] をクリックします。
- 9 [今すぐ検索] をクリックします。
- 10 ローカル・マシンから次のユーザおよびグループを選択して、[OK] をクリックします。
 - ▶ Administrator
 - ▶ Administrators
 - ▶ Authenticated Users
 - ▶ Anonymous Logon
 - ▶ Everyone
 - ▶ Interactive
 - ▶ Network
 - ▶ System

- 11 ドメインから次のユーザを追加して [OK] をクリックします。
 - ▶ <WinRunner コンピュータにログインしたドメイン・ユーザ>
 - ▶ <リモート実行を行っている Quality Center コンピュータにログインしたドメイン・ユーザ>
- 12 [起動許可] ダイアログ・ボックスで、リストのすべてのグループとユーザに対して、すべてのアクセス許可で [許可] を選択し、[OK] をクリックします。
- 13 [アクセス許可] エリアで、[カスタマイズ] を選択して [編集] をクリックします。[アクセス許可] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 14 手順 6 ~ 12 を繰り返します。
- 15 [適用] をクリックして変更を保存し、[OK] をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。
- 16 [コンポーネント サービス] ウィンドウを閉じます。

以上で、Quality Center から WinRunner テストを実行できるようになりました。

注: テストをリモートで実行する前に、WinRunner の [一般オプション] ダイアログ・ボックスにある [実行] カテゴリで、[その他の Mercury 製品によるテストのリモート実行を許可する] オプションを選択していることを確認してください。詳細については、『*Mercury WinRunner Users Guide (英語版)*』を参照してください。

ユーザ・アカウント制御設定の変更による Windows Vista での Quality Center への接続

Windows Vista で WinRunner を実行している場合、初めて Quality Center に接続する前に、ユーザ・アカウント制御 (UAC) を無効にする必要があります。また、Quality Center に接続した後、必要に応じてユーザ・アカウント制御 (UAC) を再び有効にできます。

この変更は、Windows Vista で WinRunner を実行している場合、およびその WinRunner クライアントについて Quality Center から WinRunner テストをリモートで実行する場合のみ必要です。そうでない場合は、これらの変更を行う必要はありません。

注： この節で説明するセキュリティの変更は、システム管理者が行う必要があります。Windows Vista でのユーザ・アカウント制御の変更について不明点がある場合は、Microsoft サポートにお問い合わせください。

Windows Vista でユーザ・アカウント制御 (UAC) を無効にするには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [ユーザー アカウント] を選択します。
- 2 [セキュリティ設定の変更] オプションをクリックします。
- 3 [ユーザ・アカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる] チェック・ボックスをクリアします。
- 4 [OK] をクリックします。

WinRunner のライセンスに関する作業

WinRunner のインストールには、シート・ライセンスまたはコンカレント・ライセンスを使用できます。

WinRunner をコンピュータに初めてシート・ライセンスでインストールする際には、自動的に 14 日間のデモ版ライセンスが提供されます。この期間中に、カスタマー・サポートに連絡して、コンピュータ用の正式ライセンスを取得する必要があります。

注： デモ版ライセンスは、WinRunner または QuickTest をコンカレント・ライセンスでインストールしたマシンでは使用できません。

この節では次の項目について説明します。

- ▶ WinRunner ライセンスを使った作業について
- ▶ WinRunner のライセンスについて
- ▶ WinRunner ライセンスのインストール
- ▶ シート・ライセンス・コードの申請
- ▶ シート・ライセンス・コードの有効化
- ▶ ライセンスの種類の変更
- ▶ LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定
- ▶ コミュータ・ライセンスの使用

WinRunner ライセンスを使った作業について

シート・ライセンスをインストールした後 WinRunner を初めて起動すると、デモ版ライセンスの期限が 14 日間であることを示す警告が表示されます。正式ライセンスをインストールするまで、WinRunner を起動するたびに、デモ版ライセンスの期限切れまでの日数が表示されます。

シート・ライセンスの申請と有効化は、[ヘルプ] メニュー、または WinRunner の起動時に表示される警告から直接実行できます。

以前の WinRunner ローカル・ライセンス・ユーザに対する注意事項：

WinRunner 7.5（ヨーロッパのお客様の場合は WinRunner 7.01）からアップグレードする場合は、既存のライセンス・コードを引き続き使用できます。それよりも前のバージョンの WinRunner の場合は、WinRunner を起動する前に、カスタマー・サポートからライセンス・コードを申請し、ライセンス・コードを有効にする必要があります。WinRunner を起動しようとした後にメッセージ・ボックスが表示された場合は、[ライセンスのインストール] ボタンをクリックして続けます。

コンカレント・ライセンスを使用して WinRunner をインストールした場合は、14 日間のデモ期間はありません。コンカレント・ライセンスを使用して WinRunner を実行する前に、コンカレント・ライセンス・サーバをインストールして稼働させ、コンカレント・ライセンス・コードを有効にしておく必要があります。詳細については、『*Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide (英語版)*』を参照してください。

コンカレント・ライセンスをインストールした後で WinRunner を起動すると、WinRunner は自動的にコンカレント・ライセンス・サーバを検出し、それに接続します。通常、WinRunner コンピュータでは、ライセンスを有効にするための作業は必要ありません。Mercury Functional Testing Concurrent License Server がインストールされていても、使用しているコンピュータがサーバを自動的に検出して接続できない場合は、お使いのコンピュータの LSHOST または LSFORCEHOST 変数の設定が必要になることがあります。

コンカレント・ライセンスの使用中に、コンピュータ・ライセンスを使用して、ネットワークに接続していないコンピュータで WinRunner コンカレント・ライセンスを一時的に使用することができます。

WinRunner のライセンスについて

WinRunner を使用するには、有効なライセンスが必要です。ライセンスには、次の2つのタイプがあります。シート（以前の ローカルまたはスタンドアロン）および同時実行（以前のフローディング）。次の表に2つのライセンス・タイプの違いをまとめています。

トピック	シート・ライセンス	コンカレント・ライセンス
概要	インストール先のコンピュータ固有のライセンスです。	ライセンス1件につき同時実行ユーザを1人追加する権利が与えられます。
ライセンス・コードごとのインストール数	インストールした WinRunner ごとに個別のライセンス・コードが必要です。	ネットワークにインストールできる WinRunner の数に制限はありませんが、専用のライセンス・サーバによって一度に実行できる WinRunner の数が制限されます。
デモ版ライセンス	インストールには、14日間のデモ版ライセンスが含まれています。 14日以内にライセンス・コードを申請して有効化する必要があります。	インストールには、14日間のデモ版ライセンスが含まれていません。 WinRunner を使用する前に、ライセンス・サーバでライセンス・コードを申請し、有効化する必要があります。
シリアル番号	ライセンス・コードは一部、シリアル番号に基づきます。シリアル番号によって顧客を識別できます。	ライセンス・コードは一部、シリアル番号に基づきます。シリアル番号は顧客を識別し、ライセンスがサポートする同時実行ユーザの人数を特定します。

トピック	シート・ライセンス	コンカレント・ライセンス
その他	<p>ライセンス・コードは部分的にロッキング・コードに基づいています。ロッキング・コードによって WinRunner プログラムがインストールされているコンピュータが識別されます。提供されるライセンス・コードはロッキング・コードが生成されたコンピュータだけで動作します。</p> <p>注：複数の起動用パーティションを持つコンピュータでは、パーティションごとに異なるロッキング・コードが生成されることがあります。パーティション用に異なるロッキング・コードが生成された場合には、専用のライセンス文字列を申請する必要があります。</p>	<p>Unix ネットワークはサポートされていません。</p> <p>ライセンス・サーバは固定 IP アドレスを持つ必要があります。</p> <p>WinRunner コンピュータには TCP-IP がインストールされている必要があります。</p> <p>ライセンス・メカニズムは UDP (User Datagram Protocol) を使用します。したがって、NAT (Network Address Translation) はサポートされていません。</p> <p>コンカレント・ライセンスをネットワーク上で使用するには、サーバ・コンピュータで UDP ポート 5093 を開く必要があります。</p>
ライセンス・コードの入力	<p>WinRunner をインストール後初めて起動すると、ライセンス・コードの入力を求められます。</p>	<p>WinRunner を起動するたびにライセンス・サーバがネットワーク内で検索されます。インストールされている WinRunner クライアントのためのライセンス・コードを入力する必要はありません。</p>

ライセンスの種類とインストールの種類の間には共依存関係はありません。選択したライセンスの種類に関係なく、WinRunner は任意の種類をインストールできます。その逆も同様です。インストールの種類の詳細については、「インストール・タイプとライセンス・タイプの選択」の 8 ページを参照してください。

WinRunner ライセンスのインストール

WinRunner のインストールおよびライセンスを有効化する基本的な手順は、シート・ライセンスのインストールとコンカレント・ライセンスのインストールでは異なります。この節では、両方のライセンス・タイプについてこれらの手順の概要をまとめ、各手順の詳細情報が記されている箇所を示します。

シート・ライセンスを使用して WinRunner をインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 WinRunner のセットアップ・プログラム (**autorun.exe**) を実行します。スタンドアロン・インストールまたはネットワーク・インストールを初めて行う場合は、[ライセンスの種類] 画面で [シート・ライセンス] を選択します。詳細および具体的な手順については、「スタンドアロン・インストールまたはネットワーク・インストールの実行」の 11 ページまたは「ワークステーション・インストールの実行」の 30 ページを参照してください。
- 2 14 日間のデモ版ライセンスを使用して WinRunner を実行します。
- 3 シート・ライセンス・コードを申請します。詳細については、「シート・ライセンス・コードの申請」の 53 ページを参照してください。
- 4 Mercury からライセンス・コードを受け取ったら、コードを入力してライセンスを有効化します。詳細については、「シート・ライセンス・コードの有効化」の 55 ページを参照してください。
- 5 Visual Basic アプリケーションまたは ActiveX テーブル・オブジェクトをテストする計画がある場合は、「Visual Basic サポートの設定」の 75 ページおよび「ActiveX コントロールのテーブル内容のチェックの有効化」の 78 ページに示されている手順でアプリケーションを設定します。

コンカレント・ライセンスを使用して WinRunner をインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 Mercury Functional Testing Concurrent License Server CD-ROM を挿入し、固定 IP アドレスを持つネットワーク・コンピュータにコンカレント・ライセンス・サーバをインストールします。詳細および具体的な手順については、『*Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide (英語版)*』を参照してください。
- 2 コンカレント・ライセンス・コードを申請します。詳細については、『*Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide (英語版)*』を参照してください。

- 3 マーキュリーからライセンス・コードを受け取ったら、コードを入力してライセンスを有効化します。詳細については、『*Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide (英語版)*』を参照してください。
- 4 WinRunner CD-ROM を挿入し、WinRunner のセットアップ・プログラム (**autorun.exe**) を実行します。スタンドアロン・インストールまたはネットワーク・インストールを初めて行う場合は、[ライセンスの種類] 画面で [**コンカレント・ライセンス**] を選択します。詳細および具体的な手順については、「スタンドアロン・インストールまたはネットワーク・インストールの実行」の 11 ページまたは「ワークステーション・インストールの実行」の 30 ページを参照してください。
- 5 Visual Basic アプリケーションまたは ActiveX テーブル・オブジェクトをテストする計画がある場合は、「Visual Basic サポートの設定」の 75 ページおよび「ActiveX コントロールのテーブル内容のチェックの有効化」の 78 ページに示されている手順でアプリケーションを設定します。
- 6 WinRunner の使用を開始します。WinRunner は開くと自動的にライセンス・サーバを探し、それに接続します。

注： ライセンス・コードに関する一般的な質問に関する詳細情報と回答は、<http://www.mercury.co.jp/license> を参照してください。

シート・ライセンス・コードの申請

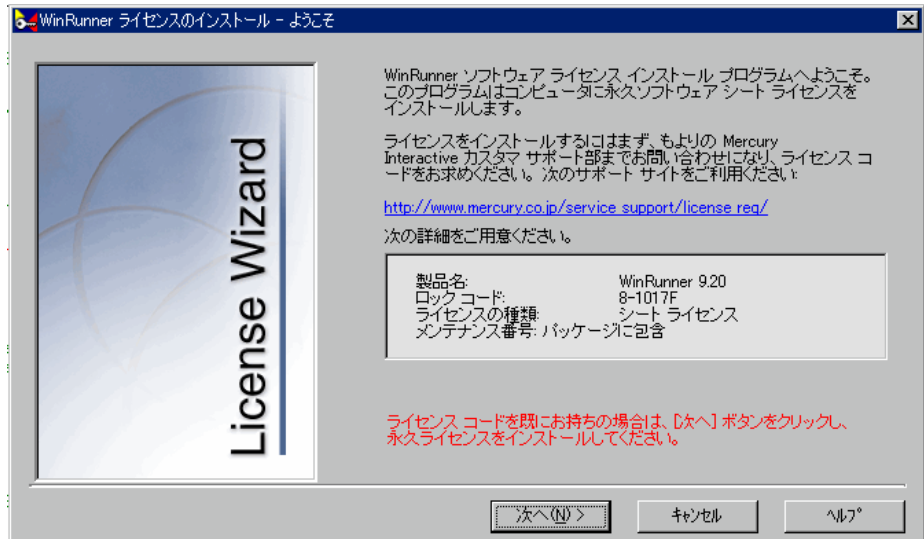
WinRunner を初めてシート・ライセンスでインストールする際には、自動的に 14 日間のデモ版ライセンスが提供されます。14 日を超えて WinRunner を使用するには、お使いになる WinRunner のコピーのライセンス・コードを申請し、有効化する必要があります。

シート・ライセンスを申請するには、次の手順を実行します。

- 1 次の手順のいずれかを実行します。
 - ▶ WinRunner の起動時に表示される警告メッセージから、[**ライセンスのインストール**] をクリックします。
 - ▶ WinRunner の中から、[**ヘルプ**] > [**ライセンス**] > [**ソフトウェアライセンスのインストール**] を選択します。

WinRunner License Installation プログラムが起動し、[ようこそ] 画面が開きます。使用しているコンピュータのロック・コード、ライセンスの種類、および WinRunner のインストール時にユーザが入力した WinRunner のメンテナンス番号が表示されます。

ユーザの各チームには1つのメンテナンス番号があります（メンテナンス番号は顧客を識別し、購入された WinRunner の各コピー用の、かつてのシリアル番号に替わるものです）。



- 2 画面に表示される Web サイトを使用して、ロック・コード、ライセンスの種類、メンテナンス番号を Mercury カスタマー・サポートに送信してください。[ようこそ] 画面から情報をコピーして、Mercury カスタマー・サポート Web サイトまたは電子メール・メッセージに貼り付けることができます。

注： WinRunner をインストールしているコンピュータから Web にアクセスできない場合は、使用するコンピュータのロック・コード、ライセンスの種類、およびメンテナンス番号を含む電子メールを、カスタマー・サポートに送信できます。

- すでにライセンス・コードをお持ちの場合は、[次へ] をクリックしてライセンスの有効化プロセスを開始し、57 ページの「シート・ライセンス・コードの有効化」のステップに進みます。お持ちでない場合は、[キャンセル] をクリックして電子メールでライセンス・コードが送られてくるのを待ちます。ライセンス・コードが届いたら、以下の手順に従って、シート・ライセンス・コードを有効にします。

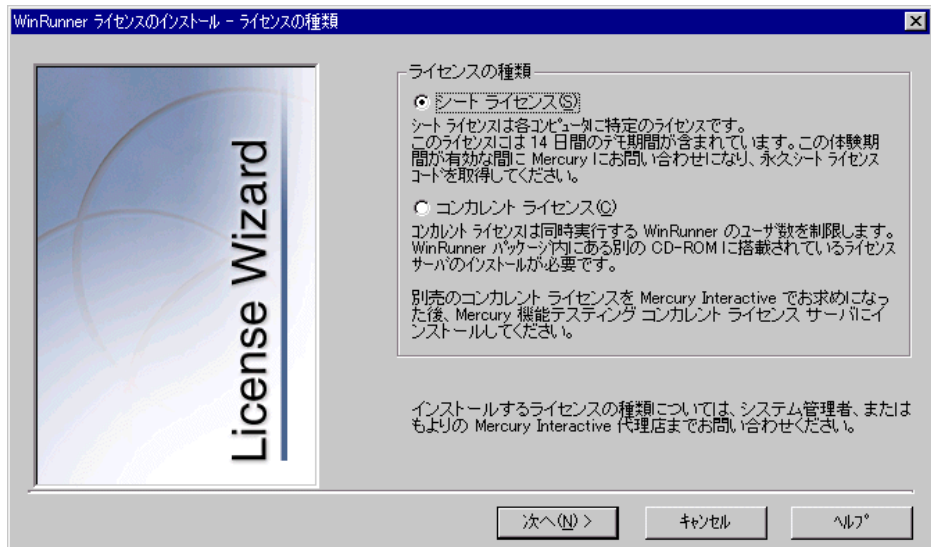
シート・ライセンス・コードの有効化

カスタマー・サポートから WinRunner のシート・ライセンス・コードを受け取ったら、それを有効にします。

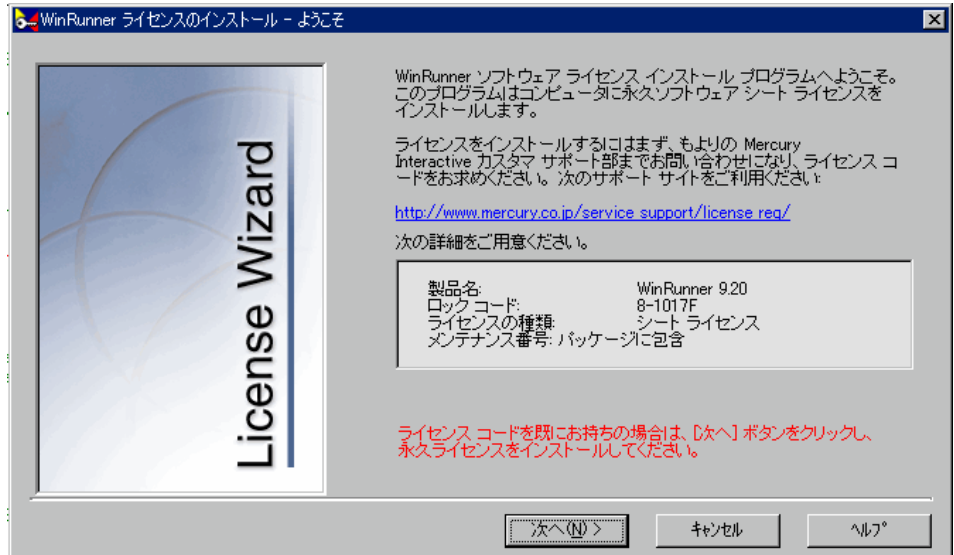
シート・ライセンス・コードを有効にするには、次の手順を実行します。

- 次の手順のいずれかを実行します。
 - ▶ WinRunner の起動時に表示される警告メッセージから、[ライセンスのインストール] をクリックします。
 - ▶ WinRunner の中から、[ヘルプ] > [ライセンス] > [ソフトウェアライセンスのインストール] を選択します。

WinRunner ライセンスのインストール・プログラムが起動し、[WinRunner ライセンスのインストール - ライセンスの種類] 画面が開きます。



- 2 [シートライセンス] を選択し、[次へ] をクリックします。[ようこそ] 画面が開き、使用しているコンピュータのロック・コード、ライセンスの種類、および WinRunner のインストール時にユーザが入力した WinRunner のメンテナンス番号が表示されます。

3 [ようこそ] 画面で, [次へ] をクリックして続行します。

[WR-core License Installation] 画面が開き, すべての Windows プログラムを終了することを推奨するメッセージが表示されます。

- 4 [次へ] をクリックします。 [User Information] 画面が開きます。

WR-core License Installation - User Information

Type in below your name and your company name. You must also type in your maintenance number (this number was shipped to you with your product).

License Wizard

First Name: Last Name:

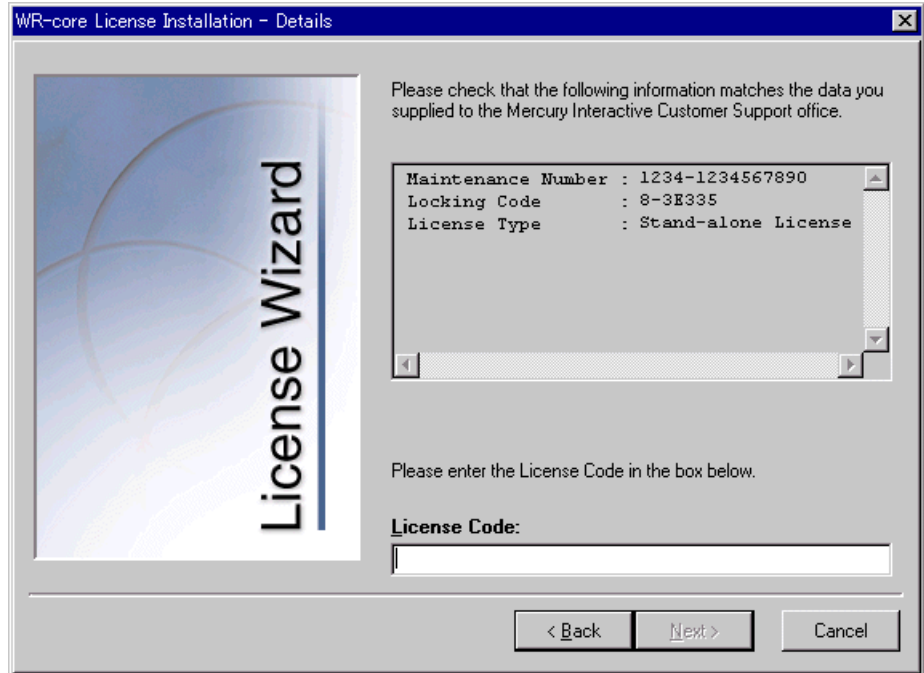
Company:

Maintenance Number:

< Back Next > Cancel

それぞれのボックスに First name, Last name および Company name を入力します。 [Maintenance Number] ボックスには、WinRunner 購入時に Mercury から受け取ったメンテナンス番号を入力してください。この番号は、パッケージ・メンテナンス番号の封筒の中の書面または送り状に記載されています。ユーザの各チームには1つのメンテナンス番号があります。メンテナンス番号は、購入された WinRunner の各コピー用の、かつてのシリアル番号に替わるものです。カスタマを特定するメンテナンス番号は、ライセンスの種類を決定します。

- 5 **[次へ]** をクリックします。[Details] 画面が開きます。



[Details] 画面の情報が正しいことを確認し、カスタマー・サポートから受け取ったライセンス・コードを **[License Code]** ボックスに入力します。ライセンス・コードは、ライセンス・リクエスト時に申し出たロッキング・コードを持つコンピュータにだけ有効です。

- 6 **[Next]** をクリックします。有効なライセンス・コードを入力すると、[Status] 画面でライセンス・コードが正しくインストールされたことを確認できます。
- 7 **[Next]** をクリックします。[Finnish] 画面が開き、カスタマー・サポート情報が表示されます。
- 8 **[Finnish]** をクリックしてライセンスの有効化プロセスを完了します。

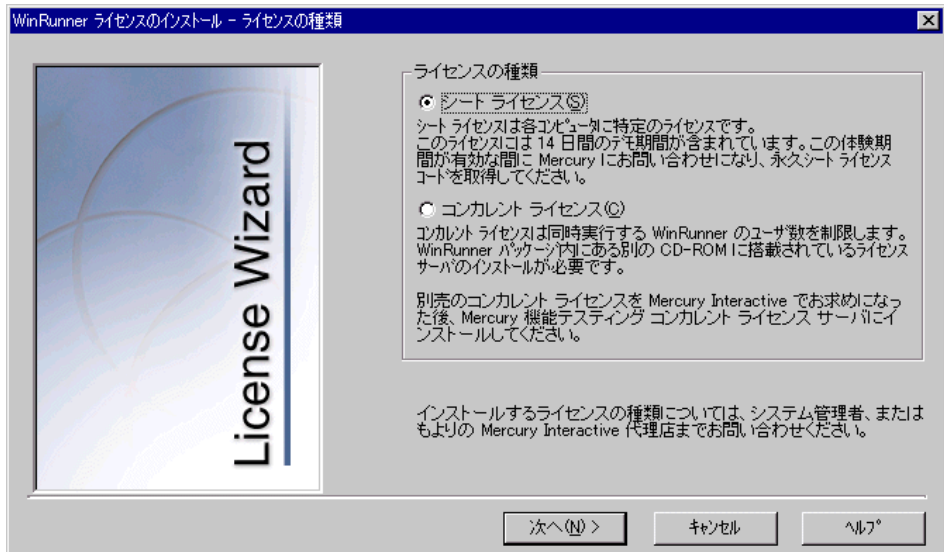
注： ライセンス・コードに関する一般的な質問に関する詳細情報と回答は、<http://www.mercury.co.jp/license> を参照してください。

ライセンスの種類の変更

WinRunner のライセンスの種類を、シートから同時実行へ、またはその逆に変更することができます。

ライセンスの種類を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 コンピュータに管理者権限を持つユーザとしてログインしてください。
- 2 WinRunner で、[ヘルプ] > [ライセンス] > [ライセンス タイプの変更] を選択します。[ライセンスの種類] が開きます。



- 3 ライセンスの種類を変更して [次へ] をクリックするか、[キャンセル] をクリックして既存のライセンスの種類を引き続き使用します。

ライセンスの種類の変更を有効にするには、WinRunner を再起動する必要があります。

同時実行からシートにライセンスの種類を変更した場合、シート・ライセンス・コードを申請し、有効にする必要があります。詳細については、「シート・ライセンス・コードの申請」の 53 ページおよび「シート・ライセンス・コードの有効化」の 55 ページを参照してください。

誤ってシートから同時実行にライセンスの種類を変更しても、インストールされ実行中であるコンカレント・ライセンス・サーバがネットワークに存在しない場合は、次に WinRunner を起動するときに警告メッセージが表示されます。警告メッセージの **[ライセンスのインストール]** をクリックして、ライセンスの種類をシートに戻します。

LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定

LSHOST または LSFORCEHOST 変数を設定すると、QuickTest または WinRunner は、ネットワーク上の特定の Mercury Functional Testing Concurrent License Server を探します。LSHOST 変数により、QuickTest または WinRunner クライアント用の、優先されるコンカレント・ライセンス・サーバが設定されます。指定したコンカレント・ライセンス・サーバが見つからない場合は、ネットワーク全体が検索されます。LSFORCEHOST 変数により、QuickTest または WinRunner のコンカレント・ライセンス・サーバは、特定のサーバに制限されます。

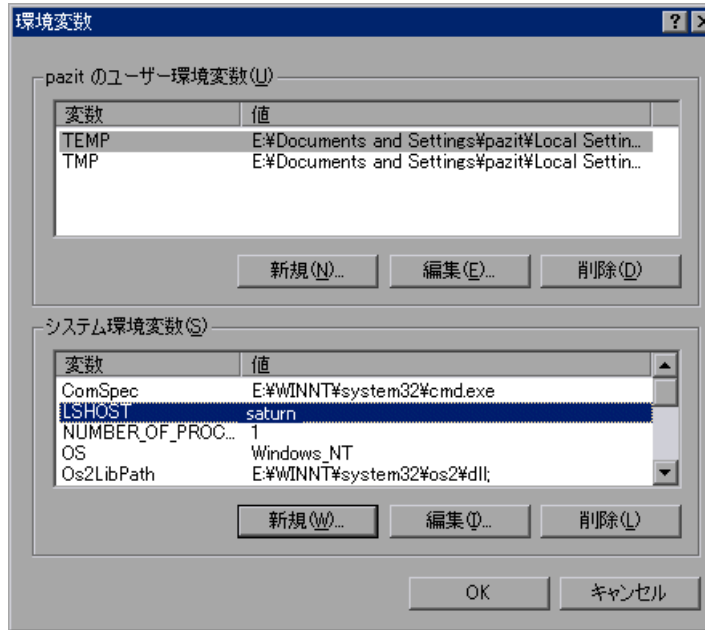
Mercury Functional Testing Concurrent License Server が WinRunner クライアントとは別のサブネットにインストールされている場合は、LSHOST または LSFORCEHOST 変数の設定が必要になることがあります。

LSHOST または LSFORCEHOST 変数を設定するには、次の手順を実行します。

- 1** デスクトップで、**[マイ コンピュータ]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。**[システムのプロパティ]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2** **[詳細]** (Windows XP では **[詳細設定]**) タブをクリックします。
- 3** **[環境変数]** ボタンをクリックします。**[環境変数]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4** **[ユーザー環境変数]** リストで、**[新規]** をクリックします。**[新しいユーザー変数]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 5** **[変数名]** ボックスに LSHOST または LSFORCEHOST と入力します。
- 6** **[変数値]** ボックスに完全なライセンス・サーバ名を入力します。あるいは、ホスト・コンピュータの IP アドレスを入力してもかまいません。

Mercury Functional Testing Concurrent License Server が 1 つのネットワーク上で実行されている場合などの複数のホスト名については、セミコロン (;) を使用して [変数値] ボックスでホスト名もしくは IP アドレスを分割します。

- 7 [OK] をクリックして、[新しいユーザー変数] ダイアログ・ボックスを閉じます。



- 8 [システム環境変数] の中で、[新規] をクリックします。[新しいシステム変数] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 9 手順 5 と 6 を繰り返します。
- 10 [OK] をクリックして、[新しいシステム変数] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 11 [OK] をクリックして、[環境変数] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 12 [OK] をクリックして [システムのプロパティ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

コンピュータ・ライセンスの使用

コンピュータ・ライセンスを使用すると、コンカレント・ライセンス・ユーザは、ネットワークに接続していない（そのため通常の方法ではライセンス・サーバからコンカレント・ライセンスを取得できない）コンピュータで WinRunner コンカレント・ライセンスを一時的に使用できます（30 日間）。例えば、ラップトップ・コンピュータを持って出張し、出張先で WinRunner を使用したい場合などです。コンカレント・ライセンス・サーバから、旅行期間中に使用する WinRunner ライセンスをチェック・アウトし、帰った時点でチェックインしてライセンスを戻すことができます。

ネットワークから切断する前にライセンスをチェック・アウトできない場合、または、出張からの戻りが延期となり、コンピュータ・ライセンスをチェック・アウトしたが有効期限が切れている場合などは、ローカル・ネットワーク・ユーザにコンピュータ・ライセンスをチェック・アウトし、それをリモートから送信してもらえよう頼むことができます。詳細については、「リモートでのコンピュータ・ライセンスの取得」の 68 ページを参照してください。

コンピュータ・ライセンスは、次の場合に役立ちます。

- ▶ 家、旅行先、あるいはネットワークに接続できない環境から WinRunner を使用したい場合。
- ▶ このライセンスを 24 時間使用でき、サーバの他のユーザが使用可能なコンカレント・ライセンスを使い果たす危険性がないことを確認します。
- ▶ アドインのデモ・ライセンスを使用できる場合（アドイン・デモ・ライセンスは、シート・ライセンスまたはコンピュータ・ライセンスのみ使用できます）。

注： コンピュータ・ライセンスは、Mercury Functional Testing Concurrent License Server バージョン 7.6 以降でサポートされています。Mercury Functional Testing Concurrent License Server バージョン 7.6 以前のバージョンから 8.0 へのアップグレードを行った場合、コンピュータ・ライセンス機能を有効にするには、新しいサーバ・ライセンス・コードを申請する必要があります。詳細については、Mercury のカスタマー・サポートまたはお近くの代理店にお問い合わせください。

コンピュータ・ライセンスのチェック・アウト

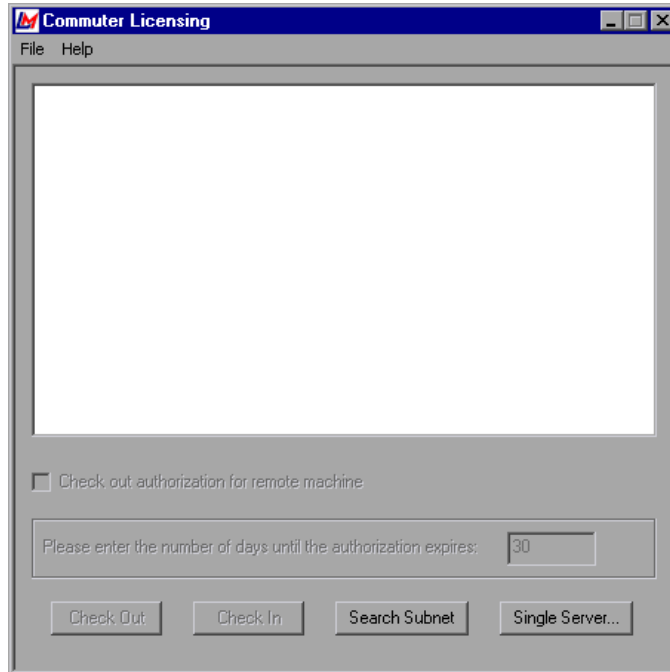
コンピュータ・ライセンスをチェック・アウトする前には、コンピュータ・ライセンスをインストールする（ラップトップなどの）コンピュータは、WinRunner がインストール済みで、ネットワークに接続され、使用可能な WinRunner ライセンスでライセンス・サーバにアクセスできることを確認します。ライセンスをチェックアウトした後は、ネットワークからコンピュータを切断できます。

ネットワークへアクセスできずコンピュータ・ライセンスが必要な場合は、ローカル・ネットワーク・ユーザにコンピュータ・ライセンスをチェック・アウトして、リモートに送信するよう頼むことができます。詳細については、「リモートでのコンピュータ・ライセンスの取得」の 68 ページを参照してください。

注：コンピュータのライセンスが現在チェック・アウトされているコンピュータでの日付・時刻の変更は避けてください。

コンピュータ・ライセンスをチェックアウトするには、次の手順を実行します。

- 1 <WinRunner のインストール先フォルダ>\arch にある WCommute.exe ファイルを実行します。[Commuter Licensing] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 サブネット内にあるすべてのライセンス・サーバで使用可能なコンピュータ・ライセンスを参照するには、[**Search Subnet**] をクリックします。特定のライセンス・サーバを使用する場合、またはサブネットの外部にあるライセンス・サーバを選択する場合は、[**Single Server**] をクリックします。
 - ▶ [**Search Subnet**] をクリックした場合は、WCommute ユーティリティにより、コンピュータ・ライセンスをサポートするライセンス・サーバがサブネットで検索され、結果が [Commuter Licensing] ダイアログ・ボックスに表示されます。このプロセスには数分かかる場合があります。
 - ▶ [**Single Server**] をクリックした場合、割り当てるライセンス・サーバを指定するダイアログ・ボックスが開きます。ライセンス・サーバ・コンピュータのホスト名、IP アドレス、または IPX アドレスを入力し、[**OK**] をクリックします。指定したライセンス・サーバが割り当てられ、[Commuter Licensing] ダイアログ・ボックスに表示されます。

各ライセンス・サーバに関して、チェックアウトに使用できるコンピュータ・ライセンスのリストが表示されます。コンピュータ・ライセンスの隣にある赤いチェック・マークは、すでにユーザがそのライセンスをコンピュータにチェックアウトしていることを意味します。同じアプリケーション用の複数のライセンスを、同じコンピュータにチェックアウトすることはできません。

- 3 チェックアウトするライセンスを選択します。
- 4 **[Please enter the number of days until the authorization expires]** ボックスで、ライセンスをチェックアウトする最長日数（30 日まで）を指定します。

注：ライセンスをチェックアウトすると、他のユーザが使用できるライセンスの数が少なくなります。そのため、必要最低限の日数を指定する必要があります。

- 5 **[Check Out]** をクリックします。選択したライセンスは、コンピュータでローカルに保存されます。
- 6 新しくチェック・アウトしたライセンスを使用するには、WinRunner を開き、ライセンスの種類を同時実行からシートに変更します。詳細については、「ライセンスの種類の変更」の 60 ページを参照してください。

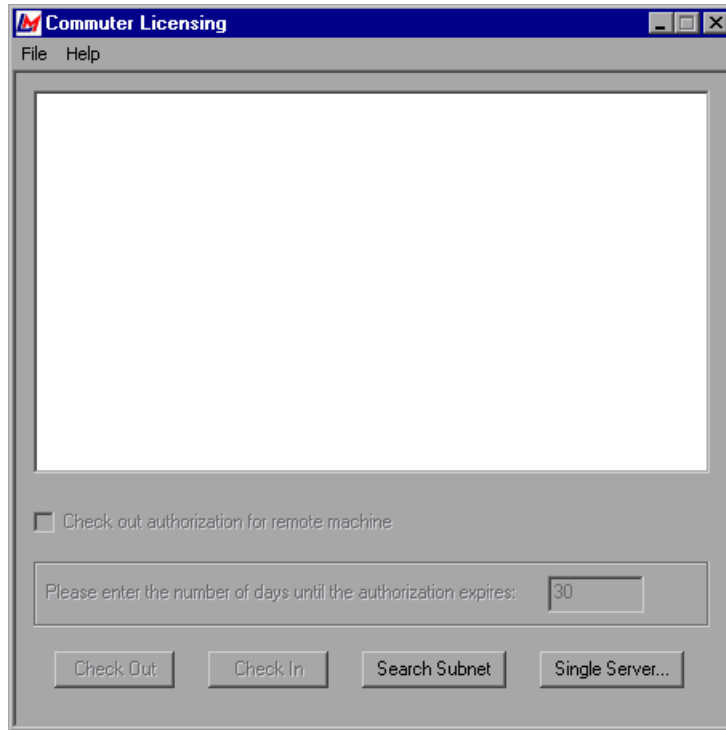
コンピュータ・ライセンスのチェックイン

コンピュータ・ライセンスの使用が完了したら、コンピュータから、チェックアウトを行ったライセンス・サーバに、ライセンスをチェックインする必要があります。これにより、他のユーザがそのライセンスを使用できるようになります。

注：期限の切れたライセンスは使用できなくなり、コンピュータをライセンス・サーバのネットワークに接続しなくても、自動的にライセンス・サーバに返されます。

コンピュータ・ライセンスをチェックインするには、次の手順を実行します。

- 1 <WinRunner のインストール先フォルダ>\arch にある WCommute.exe ファイルを実行します。[Commuter Licensing] ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 2 65 ページにある「コンピュータ・ライセンスのチェック・アウト」のステップ 2 で説明されている手順で、チェックインするコンピュータ・ライセンス用のライセンス・サーバを割り当てます。チェックアウトを行ったライセンス・サーバと同じサーバに、ライセンスをチェックインする必要があります。
- 3 以前チェックアウトしたライセンスを選択します。

Tip: チェックアウトしたライセンスには、赤いチェック・マークが付いていません。

- 4 **[Check In]** をクリックします。ライセンスはライセンス・サーバに返され、他のユーザが使用できるようになります。WinRunner を再び使用するには、まずライセンスの種類をシートから同時実行に変更する必要があります。詳細については、「ライセンスの種類の変更」の 60 ページを参照してください。

リモートでのコンピュータ・ライセンスの取得

リモート・コンピュータ・ライセンスを使用すると、ローカル・ネットワーク・ユーザは、ローカルで WinRunner コンピュータ・ライセンスをチェック・アウトし、リモート・コンピュータにインストールするユーザにコンピュータ・ライセンスを送信できます。これは、出張が長引くなどして、オフィスから離れていてライセンス・サーバのネットワークに接続していないときに、WinRunner を使用する必要がある場合に便利です。

注： コンピュータのライセンスが現在チェック・アウトされているコンピュータでの日付・時刻の変更は避けてください。

以下に、コンピュータ・ライセンスをリモートで取得する手順をまとめます。

リモートでコンピュータ・ライセンスを取得するには、次の手順を実行します。

- 1 WCommute ユーティリティを実行して、使用するコンピュータのコンピュータ・ロッキング・コードを生成し、Mercury Functional Testing Concurrent License Server にアクセスできるローカル・ユーザに、そのコンピュータ・ロッキング・コードを送信します。詳細については、「リモート・コンピュータのロッキング・コードの生成」の 69 ページを参照してください。
- 2 生成されたコンピュータ・ロッキング・コードを入力して WCommute ユーティリティを実行し、リモート・コンピュータ・ライセンスをチェックアウトして、それを送信するよう、ローカル・ユーザに依頼します。詳細については、「リモート・コンピュータ用のコンピュータ・ライセンスのチェック・アウト」の 70 ページを参照してください。
- 3 WCommute ユーティリティを実行し、コンピュータにリモート・コンピュータ・ライセンスをインストールします。詳細については、「リモート・コンピュータでのコンピュータ・ライセンスのインストール」の 73 ページを参照してください。
- 4 WinRunner を開き、ライセンスの種類を同時実行からシートに変更します。詳細については、「ライセンスの種類の変更」の 60 ページを参照してください。

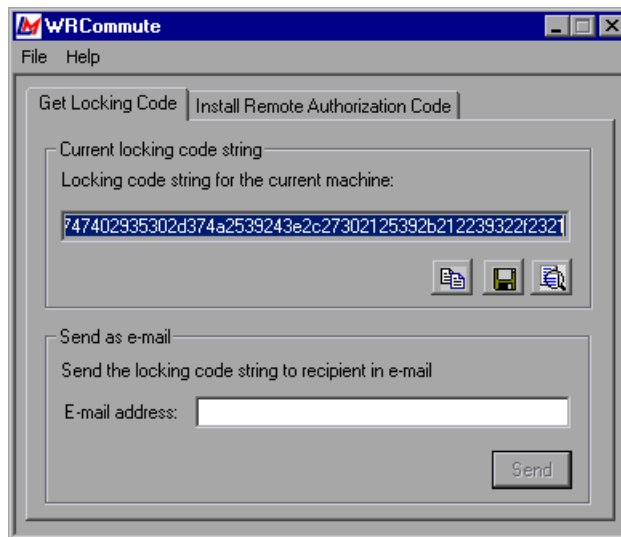
リモート・コンピュータのロックング・コードの生成

コンピュータ・ライセンスをリモートで取得する最初のステップでは、コンピュータでロックング・コードを生成し、ライセンス・サーバにアクセスできるネットワーク・ユーザにそのコードを（電子メールで）送信します。

注： コンピュータ・ライセンスのロックに使用されるリモート・コンピュータのロックング・コードは、ECHOID ユーティリティにより表示されるロックング・コードとは異なります。コンピュータ・ライセンスのロックング・コードを取得するには、WRCommute ユーティリティを使用する必要があります。

リモート・コンピュータでロックング・コードを生成するには、次の手順を実行します。

- 1 < WinRunner のインストール先フォルダ > %arch にある **WRCommute.exe** ファイルを実行します。 [WRCommute] ダイアログ・ボックスが表示されます。



[**Locking code string for the current machine**] ボックスには、WinRunner ライセンスを含むライセンス・サーバにアクセスできるネットワーク・ユーザに電子メールで送信する必要がある、ロックング・コードがあります。

- 2 次のいずれかの方法で、ロッキング・コードをローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。



- ▶ ロッキング・コードの文字列を選択し、[**Copy**] ボタンをクリックして、その文字列を Windows のクリップボードにコピーします。続いて電子メール・プログラムを開き、その文字列を新しい電子メール・メッセージに貼り付け、電子メールでローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。



- ▶ [**Save**] ボタンをクリックし、ロック・コードをファイルに保存します。ファイルの名前と場所を指定してから、ファイルを新しい電子メール・メッセージに添付し、ローカル・ネットワーク・ユーザに電子メールで送信します。



- ▶ [**Display**] ボタンをクリックして、ロック・コード全体を別のダイアログ・ボックスで表示します。ロッキング・コードの文字列を選択し、それを右クリックしてから [**Copy**] を選択して、その文字列を Windows のクリップボードにコピーできます。続いて電子メール・プログラムを開き、その文字列を新しい電子メール・メッセージに貼り付け、電子メールでローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。

- ▶ [**E-mail address**] ボックスで、ローカル・ネットワーク・ユーザの電子メール・アドレスを入力し、[**Send**] をクリックします。このオプションがサポートされるのは、Microsoft Outlook Express が電子メール・クライアントとしてセットアップされている場合のみです。

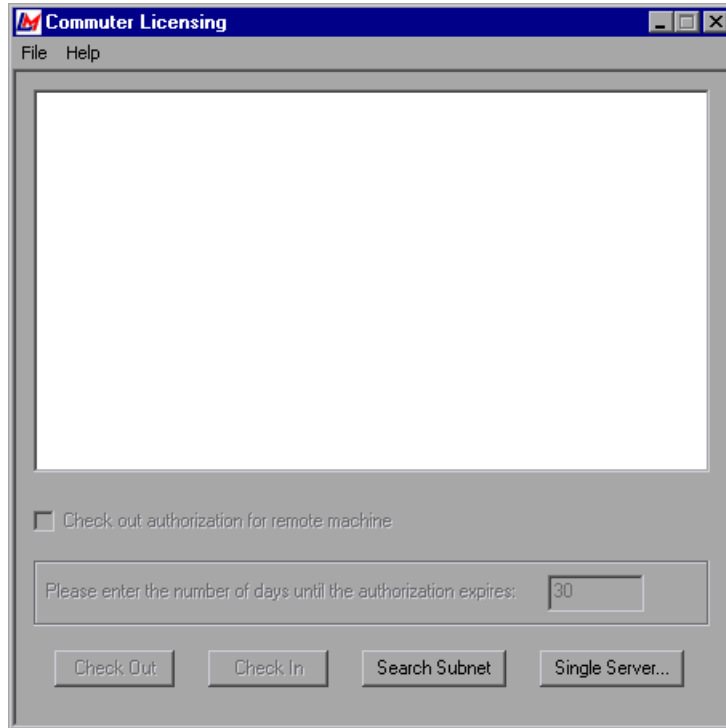
リモート・コンピュータ用のコンピュータ・ライセンスのチェック・アウト

コンピュータ・ライセンスをリモートで取得する次のステップでは、ローカル・ネットワーク・ユーザに、ライセンスをチェックアウトし、それを（電子メールで）送信してもらいます。

注： 次の手順を実行できるのは、使用するコンピュータに WinRunner がインストールしてあり、WinRunner ライセンスが含まれるライセンス・サーバにアクセスすることもできるローカル・ネットワーク・ユーザのみです。

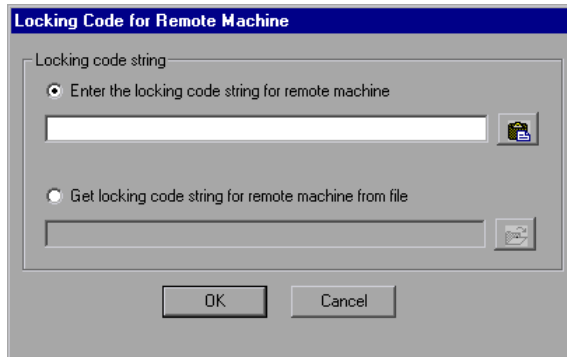
リモート・コンピュータ用のコミュータ・ライセンスをチェックアウトするには、次の手順を実行します。

- 1 <WinRunner のインストール先フォルダ>¥arch にある **WCommute.exe** ファイルを実行します。[Commuter Licensing] ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 2 65 ページにある「コミュータ・ライセンスのチェック・アウト」のステップ 2 で説明されている手順で、リモート・コミュータ・ライセンスのチェック・アウトを行うライセンス・サーバを割り当てます。
各ライセンス・サーバに関して、チェックアウトできるコミュータ・ライセンスのリストが表示されます。
- 3 チェックアウトするライセンスを選択します。
- 4 [Check out authorization for remote machine] チェック・ボックスを選択します。

- 5 **[Check Out]** をクリックします。 **[Locking Code for Remote Machine]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 6 次のいずれかの方法で、リモート・ユーザから電子メールで送信されたロッキング・コードを入力します。

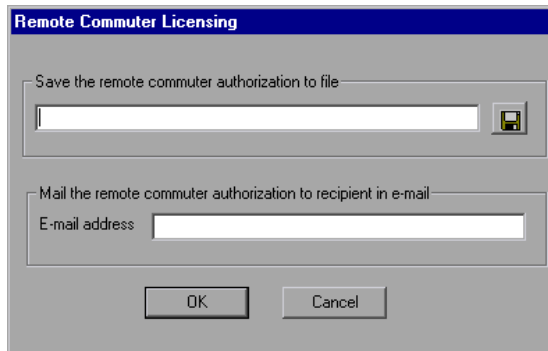
- ▶ ロッキング・コードが電子メールの本文で送信されている場合、ロッキング・コードを Windows のクリップボードにコピーします。 **[Locking Code for Remote Machine]** ダイアログ・ボックスで **[Enter the locking code string for remote machine]** を選択してから、 **[Paste]** ボタンをクリックします。



- ▶ ロッキング・コードが電子メールの添付ファイルとして送信されている場合、添付ファイルを保存してから **[Get locking code string for remote machine from file]** を選択します。 **[Load]** ボタンをクリックします。ロッキング・コードが含まれているファイルを選択し、 **[Open]** をクリックします。



- 7 **[OK]** をクリックします。 **[Remote Commuter Licensing]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 8 次のいずれかの方法で、リモート・ユーザにコミュニタ・ライセンスを送信します。



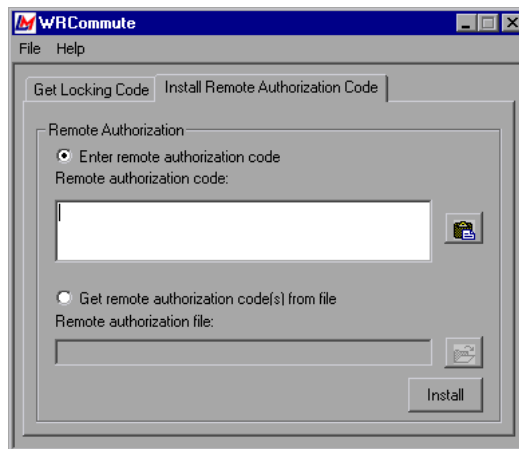
- ▶ **[Save]** ボタンをクリックし、ロック・コードをファイルに保存します。ファイルの名前と場所を指定し、**[Save]** をクリックして、**[OK]** をクリックします。ファイルを新しい電子メール・メッセージに添付し、リモート・ユーザに電子メールで送信します。
- ▶ **[E-mail address]** ボックスで、リモート・ユーザの電子メール・アドレスを入力します。**[Send]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。このオプションがサポートされるのは、Microsoft Outlook Express が電子メール・クライアントとしてセットアップされている場合のみです。

リモート・コンピュータでのコミュニタ・ライセンスのインストール

コミュニタ・ライセンスをリモートで取得する最後のステップでは、ネットワーク・ユーザから送信されたライセンスを、使用するコンピュータでインストールします。

リモート・コンピュータでコミュニタ・ライセンスをインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 コンピュータに管理者権限を持つユーザとしてログインしてください。
- 2 **< WinRunner のインストール先フォルダ > \arch** にある **WRCommute.exe** ファイルを実行します。[WRCommute] ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 **[Install Remote Authorization Code]** タブをクリックします。



- 4 次のいずれかの方法で、ネットワーク・ユーザから電子メールで送信されたコンピュータ・ライセンスを入力します。

- ▶ コミュータ・ライセンスが電子メールの本文で送信されている場合、コンピュータ・ライセンスを Windows のクリップボードにコピーします。
[WRCommute] ダイアログ・ボックスの [Install Remote Authorization Code] タブで [**Enter remote authorization code**] を選択してから、[Paste] ボタンをクリックします。



- ▶ コミュータ・ライセンスが電子メールの添付ファイルとして送信されている場合、添付ファイルを保存してから [**Get remote authorization code(s) from file**] を選択します。[Load] ボタンをクリックし、ロッキング・コードが含まれているファイルを選択してから、[Open] をクリックします。



- 5 [Install] をクリックします。新しいライセンス・コードがコンピュータにインストールされます。
- 6 WinRunner を開き、ライセンスの種類を同時実行からシートに変更します。詳細については、「ライセンスの種類の変更」の 60 ページを参照してください。

注： ユーザがリモート・コンピュータ・ライセンスを使い終わっても、リモート・コンピュータ・ライセンスをライセンス・サーバにチェックインできません。リモート・コンピュータ・ライセンスはそのままリモート・コンピュータ上で期限切れになります。ユーザはオフィスに戻ってネットワークに再接続した後で、ライセンスの種類をシートから同時実行に変更する必要があります。詳細については、「ライセンスの種類の変更」の 60 ページを参照してください。

Visual Basic サポートの設定

Visual Basic 6.0 アプリケーションを使った作業を行う場合は、Visual Basic アプリケーションを設定する必要はありません。

WinRunner の Visual Basic 用のアドイン・サポートを使用して Visual Basic 5.0 アプリケーションをテストするには、あらかじめテスト・ユーザ（またはアプリケーション開発者）がテストする Visual Basic アプリケーションを設定しておく必要があります。

注： WinRunner 7.6 以前のバージョンでは、Visual Basic 6.0 アプリケーションも設定する必要がありました。WinRunner 7.6 以降では、Visual Basic 6.0 アプリケーションを設定する必要はありません。ただし、WinRunner の以前のバージョンとともに使用するため、WinRunner エージェントを Visual Basic 6.0 アプリケーションにすでに追加している場合は、WinRunner エージェントを削除する必要はありません。

Visual Basic 5.0 サポートの設定

Visual Basic 5.0 アプリケーション用 WinRunner のアドイン・サポートを使用する前に、アプリケーションに WinRunner エージェントを追加する必要があります。

Visual Basic 5.0 アプリケーション用のサポートを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 アプリケーションが現在 WinRunner OCX を参照している場合、関連付けられたコード（Wrb1.Init Forms）だけでなく、まずフォームからすべての参照を削除する必要があります。
- 2 WinRunner のインストール用 CD-ROM の **¥vbdev** ディレクトリから **setup.exe** プログラムを実行して、WinRunner エージェントをアプリケーションに追加します。

WinRunner エージェント・インストールにより、Visual Basic IDE に AddIn がインストールされます。この AddIn の名前は、**WinRunnerAddIn.Connect** です。これにより、次に示すように、Visual Basic のソース・コードにコード行が追加されます。

WinRunnerAddIn.Connect AddIn

- ▶ **wrvbasr.dll** へのリファレンスが追加されます。
- ▶ 「WinRunnerSupport」と呼ばれる Visual Basic プロジェクトに、新しいコード Module が追加されます。
- ▶ WinRunnerSupport Module に次の 1 行が追加されます。
Global asr As New WRVBASRLib.VbMod
- ▶ 次のように、Startup オブジェクトにコードが追加されます。

Startup Object が Form である場合、AddIn により **Form_Load** イベントに次のコード行が追加されます。asr.Init Forms

Startup Object が Sub Main である場合、AddIn により **Main()** メソッドに次のコード行が追加されます。asr.Init Forms
- ▶ プロジェクト内のすべての Class モジュールに対して、AddIn により **Class_Initialize** イベントに次のコード行が追加されます。asr.Init Forms
- ▶ プロジェクト内のすべての UserControl モジュールに対して、AddIn により **UserControl_Initialize** イベントに次のコード行が追加されます。asr.Init Forms, UserControl
- ▶ プロジェクト内のすべての UserDocument モジュールに対して、AddIn により **UserControl_Initialize** イベントに次のコード行が追加されます。asr.Init Forms, UserDocument

注： WinRunner エージェントのインストール中に、「DllRegisterServer in <Windows directory>\system\wrvbasr.dll failed」というエラー・メッセージが表示された場合、システム・ディレクトリに（バージョン 2.20.4054.1 以降の）**oleaut32.dll** ファイルをコピーし、WinRunner エージェントを再インストールします。

WinRunner と Visual Basic IDE を同時に実行しないでください。

アプリケーションは、実行中の実行可能ファイルとしてのみテストします。

ActiveX コントロールのテーブル内容の チェックの有効化

テーブル・オブジェクトとして表示可能な ActiveX コントロールに関するテーブル内容の検証のサポートを有効にするには、Visual Basic で ActiveX コントロールのキャプチャ関数を実装してから、TSL 関数を実行する必要があります。

WinRunner は、OLE オートメーション・サーバに組み込まれる Visual Basic プロジェクト・ファイル (**wrvbsrv5.vbp**) をインクルードします。WinRunner は、このサーバを使用してテーブルの内容をキャプチャします。

テーブル・オブジェクトとして表示可能な ActiveX コントロールに関する内容の検証を有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 Visual Basic 5.0/6.0 を起動します。
- 2 Visual Basic で、WinRunner インストール・フォルダの **custom\wrvbsrv** にある **wrvbsrv5.vbp** を開きます。
- 3 **capture.cls** を開き、次のプロトタイプを持つ Sub ルーチンを追加します。

```
Public Sub <キャプチャ関数名> (ByVal <タブ・コントロール> As Object,  
ByVal <ファイル名> As String)
```

この関数は、次の形式で、ActiveX コントロールのテーブル内容を、<ファイル名>にダンプする必要があります。

cells separated by Tab(Chr(9)), rows separated by Newline.

注：セル・データに、タブや改行などのエスケープ文字を含めることはできません。先頭行（カラムのタイトル）には、エスケープ文字やスペース文字を含めることはできません。例として、wrvbsrv プロジェクト・ファイルの MSGridCapture Sub ルーチンを参照してください。

- 4 [File] メニューから [**Make WRVBSRV DLL file**] を選択します。
- 5 WinRunner で、**add_table_capture_function** ステートメントを実行します。2 番目の引数を、Visual Basic 関数で実装した Sub の名前に設定します。たとえば、次のようになります。

```
add_table_capture_function ("MSGrid.Grid", "MSGridCaptureFunc");
```

WinRunner と埋め込みブラウザ・コントロールとの連携の設定

Internet Explorer ブラウザまたは Netscape ブラウザ以外のアプリケーション内にある埋め込みブラウザ・コントロールと連携する場合は、**wrun.ini** でそのアプリケーションを指定する必要があります。

WinRunner と埋め込みブラウザ・コントロールとの連携を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 Microsoft Active Accessibility がインストールされていることを確認します。
- 2 テキスト・エディタで < **WinRunner のインストール先フォルダ** > %dat%\wrun.ini を開きます。
- 3 各アプリケーションについて、**wrun.ini** の [ie_hooks] セクションに <MyApp.exe>=yes の形式で 1 行が追加されます。<MyApp.exe> は、アプリケーションの名前です。

WinRunner 機能の追加

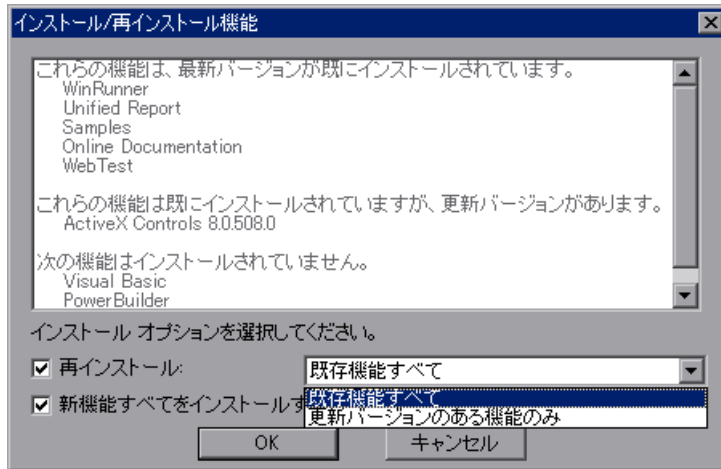
WinRunner をインストールしたら、いつでもセットアップ・プログラムを実行して、追加の開発環境やコントロールのサポート、サンプル、またはオンライン・マニュアルなどのプログラム機能を追加できます。

プログラム機能を追加する際にどのオプションを選択すればよいか分からない場合、詳細については、本書の「WinRunner のインストール」の節にある対応する手順を参照してください。

機能を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 WinRunner 機能の追加に使用するドライブに CD-ROM を挿入します。CD ドライブがローカル・マシンにある場合、[WinRunner Setup] ウィンドウが開きます。ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、ネットワーク・ドライブに接続し、**%setup** サブディレクトリにある **autorun.exe** を実行します。
- 2 [WinRunner のインストール] をクリックします。WinRunner のセットアップ・プログラムが起動します。WinRunner のセットアップのスプラッシュ画面とセットアップの進行状況バーが表示されます。ソフトウェア使用許諾契約が表示されます。
- 3 契約内容を読みます。ライセンス契約の条件に同意するには、[はい] をクリックします。[いいえ] をクリックすると、セットアップ・プログラムが閉じます。WinRunner の追加機能をインストールするには、ライセンス契約に同意する必要があります。
- 4 [登録情報] ダイアログ・ボックスで、ユーザ名、会社名、WinRunner のメンテナンス番号が正しいことを確認します。[次へ] をクリックして先に進みます。
- 5 [はい] をクリックして、登録情報を確定します。
- 6 インストールの種類を選択します。[スタンドアロン インストール]、[ネットワーク インストール]、または [ネットワーク インストール (ショートカットを追加)] から、インストールの種類を選択します。[次へ] をクリックして先に進みます。
- 7 [カスタム インストール] を選択します。[次へ] をクリックして先に進みます。

- 8 インストールする機能を選択し、インストール先フォルダを指定します。このフォルダは、WinRunner のインストール先フォルダにする必要があります。**[次へ]** をクリックして先に進みます。
- 9 **[はい]**、**[いいえ]**、または **[ローカルのアップデート フォルダを使用]** を選択して、更新する機能の設定を行います。**[次へ]** をクリックして先に進みます。
- 10 **[インストール/再インストール機能]** 画面が開きます。



[再インストール] チェック・ボックスを選択して、**既存機能すべて**を再インストールするか、**更新バージョンのある機能のみ**を再インストールするか指定します。

まだインストールしていない機能をインストールするには、**[新機能すべてをインストールする]** を選択します。

- 11 手順 6 で **[ネットワーク インストール (ショートカットを追加)]** を選択した場合は、ローカルの WinRunner フォルダの場所を選択します。**[次へ]** をクリックして先に進みます。

注：1 つまたは複数のワークステーション・インストールにすでに使用されているネットワーク・インストールに機能を追加する場合は、ワークステーションから WinRunner をアンインストールしてから、ワークステーション・インストールを再実行して、新しい機能で各ワークステーションを更新する必要があります。

- 12** WinRunner の一時ファイルの場所を選択します。[次へ] をクリックして先に進みます。
- 13** WinRunner アイコンのプログラム・フォルダを選択します。[次へ] をクリックして先に進みます。
- 14** 選択したインストールの設定内容が、読み取り専用のウィンドウに表示されません。設定内容を確認します。別の設定を選択するには、[戻る] をクリックします。設定に問題がない場合は、[次へ] をクリックします。
インストールが始まります。
セットアップ・プロセスを中断、または終了するには、[キャンセル] をクリックします。
- 15** オンライン・マニュアルへのアクセス方法に関する情報を読みます。Visual Basic アプリケーション用のアドイン・サポートをインストールした場合は、画面に追加情報が表示されます。[次へ] をクリックして先に進みます。
- 16** 使用するライセンスの種類に関する内容を読みます。[次へ] をクリックします。これでインストール・プロセスが完了します。
- 17** Mercury のカスタマー・サポートに関する情報を読みます。Mercury のユーザとしてすぐに登録するには、[今すぐ登録する] チェック・ボックスを選択します。Mercury のカスタマー・サポート Web サイトの登録ページが開きます。[次へ] をクリックします。
- 18** コンピュータを再起動するかどうかを選択し、[完了] をクリックします。

注：すぐにコンピュータを再起動することをお勧めします。システムの再起動を遅らせるとシステムが予期しない振る舞いをする可能性があります。

WinRunner のアンインストール

インストールされた WinRunner には、コンピュータから WinRunner のソフトウェアおよびファイルをアンインストールし、**[スタート]** メニューから WinRunner のショートカットを削除するアンインストール・プログラムが含まれています。

WinRunner をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1** **[スタート]** メニューから、**[プログラム] > [WinRunner] > [Uninstall WinRunner]** とクリックします。**[はい]** をクリックし、WinRunner をアンインストールすることを確認します。
- 2** **[Uninstall Shield]** ウィンドウが開きます。他のプログラムによって使用されていない共有ファイルの削除を確認するメッセージが表示される場合があります。削除してよいか分からない場合は、**[すべていいえ]** をクリックします。
アンインストール・プログラムにより、コンピュータから WinRunner が削除されます。
- 3** アンインストール・プログラムが完了すると、**[OK]** ボタンが有効になります。**[OK]** をクリックします。
- 4** アンインストール・プロセスを完了するには、コンピュータを再起動する必要があります。

注： コンピュータを再起動する前に WinRunner を再インストールしようとしても、WinRunner を正しくインストールできない場合があります。
